

---

# 東北芸術工科大学 紀要

## BULLETIN OF TOHOKU UNIVERSITY OF ART AND DESIGN

第33号 2026年3月

根岸寛一資料について

On the Historical Materials of Negishi Kan'ichi

花田 史彦、岡田 秀則、根岸 吉太郎

| HANADA Fumihiko, OKADA Hidenori, NEGISHI Kichitaro

# 【制作ノート】

## 根岸寛一資料について

### On the Historical Materials of Negishi Kan'ichi

花田 史彦、岡田 秀則、根岸 吉太郎

| HANADA Fumihiko, OKADA Hidenori, NEGISHI Kichitaro

#### 1. はじめに

本稿では、東北芸術工科大学（以下、東北芸工大）で保管している根岸寛一資料（以下、根岸資料）について紹介し、その目録を公開する。

根岸寛一（1894–1963年）は、戦前から戦後初期にかけて活躍した映画製作者、映画事業家である。日活多摩川撮影所所長、満洲映画協会理事、日本映画社社長といった要職を歴任した、日本映画史上の重要人物として知られている。

以下、東北芸工大に根岸資料が寄託された経緯、根岸寛一の略歴と資料の意義について述べる<sup>1)</sup>。

#### 2. 寄託の経緯

本稿の著者のひとり根岸吉太郎（東北芸工大理事長、映画監督）は、根岸寛一の妻すみの兄である根岸吉之助の孫にあたる。つまり根岸吉太郎から見て、根岸寛一は大叔父ということになる。

寛一とすみとのあいだには、寛子（長女）と晶子（次女）という娘がいた。晶子の娘、つまり寛一の孫にあたる遺族の松原純子氏から、長らく個人的に保管してきた根岸資料の扱いについて吉太郎に相談があったことが、東北芸工大への根岸資料寄託のきっかけである。

2024年9月、吉太郎は、同じく本稿の著者である花田史彦（東北芸工大専任講師、メディア史研究）に根岸資料の存在を話した。同年10月、ふたりは松原氏の案内で東京都にあるレンタルトランクルームに行き、そこに保管されていた

根岸資料（合計8箱）を東北芸工大に宅配便で送った。

2025年3月、吉太郎の依頼で岡田秀則（国立映画アーカイブ主任研究員、映画史研究）が東北芸工大を訪れ、吉太郎、花田とともに根岸資料の状況を確認した。そして、今後3人で保存や公開に向けた作業をすすめていくことが決まった。

#### 3. 根岸寛一の略歴と根岸資料の学術的意義

##### 3-1. 根岸寛一の略歴

根岸寛一の経歴については、彼の盟友であった映画評論家の岩崎昶による評伝『根岸寛一』（根岸寛一伝刊行会、1969年。1998年に大空社から復刻）が詳しい。また、根岸資料に登場する人物の特定作業も、同書に多くを負っている。以下、同書に依拠しながら根岸の略歴をたどる。なお、根岸寛一は1921年に結婚するまでは立花寛一という名だったが、本稿では便宜上、結婚するより前の時期についても根岸姓に統一する。

1894年、根岸寛一は茨城県筑波郡小田村（現在のつくば市）で文房具店を営んでいた立花寛次郎・たみ夫妻の長男として生まれ、長じて早稲田大学で学んだ。1915年に大学を卒業したあと読売新聞社で働くが、早くも18年には父方の叔父小泉丑治が経営する根岸興行部に移っている。根岸興行部は、浅草で演劇や活動写真などの興行を手がけた会社である。21年には小泉の次女である根岸すみと結婚し、立花姓から根岸姓となった<sup>2)</sup>。

1923年の関東大震災により、浅草を拠点にしていた根岸興行部は大きな打撃を受け、松竹傘下に入る。以後しば

らくのあいだ、根岸は憧れだった小説の執筆を試みたり、作家の直木三十五らと聯合映画芸術家協会を結成して映画製作を行なったり、旧友古野伊之助の世話で新聞聯合社(のち同盟通信社)の演芸部長を務めるなど、紆余曲折を経験する。

1935年、根岸は前年に建てられた日活多摩川撮影所に招かれ、所長に就任する。映画界がサイレントからトーキーへと移行していく時代のなか、内田吐夢や熊谷久虎といった監督とともに日活映画を盛り上げた。しかし、日活の創立者横田永之助との関係が悪化したことにより、38年6月に根岸は会社を去った。

同年、根岸は満洲映画協会(1937年設立。以下、満映)に招かれ、大陸に渡った。大学時代の友人で、満洲弘報協会の理事をしていた森田久が声をかけたという。満映は、南満洲鉄道(1906年設立)と「満洲国」(1932年建国)とが共同出資してつくられた国策映画会社である。その任務は、満洲住民に対する映画をとおした宣撫活動だった。

根岸の理事着任につづき、1939年11月には、甘粕正彦が満映の理事長になる。「甘粕―根岸体制」<sup>3)</sup>の始まりである。根岸は自らの人脈を活かし、日本から満映にプロデューサーのマキノ満男(光雄)をはじめとした映画人を招いていった。

満映は、日本の大陸進出を映画というメディアによって支えることを目的とした国策企業である。ただし川崎賢子は、甘粕が「日本人社員と非日系社員との待遇格差をより小さいものにした」こと、また満映が「左翼からの転向組を少なからず受け容れたこと」を指摘している<sup>4)</sup>。先に紹介した岩崎昶も左翼映画人として知られているが、満映で働いた時期があった<sup>5)</sup>。さらに、満映のスタッフや施設が、戦後に中国の映画製作を支えた事実もある。そうした「遺産」の存在もまた、満映の評価を複雑にしている。

1945年6月、根岸は肺病のため満洲を離れ日本に帰った。満洲という寒冷地での生活は、彼の体を蝕んでいたのである。甘粕は、日本の敗戦直後の8月20日に新京で自殺している。

戦後の根岸は、日本映画社の社長に就任する。同社は戦中にニュース映画製作を担ってきた企業だが、敗戦後は民主化のための映画製作という新たな役割を与えられていた。ここで根岸は、原爆投下直後の広島と長崎に撮影スタッフを派遣して現地の様子を記録させるなど、重要な役割を果たしている。このときのフィルムはドキュメンタリー映画

『広島・長崎における原子爆弾の影響』として編集され、現在DVDで視聴可能である<sup>6)</sup>。

1946年12月、根岸は新聞聯合社時代に親しくしていた東急の黒川渉三に招かれて東横映画や東京映画配給の経営に参加し、満洲から引き揚げてくる映画人の受け皿をつくることに努めた。これらの会社はのちに東映となる。

1949年、根岸は公職追放の対象とされた。翌年には追放解除となるが、満洲時代以来の病がいよいよ悪化し、映画界の第一線で働くことは難しくなった。とはいえ、根岸を頼って相談に訪れる人は多く、「映画会社の重役、幹部、平社員、シナリオ作家、監督、映画ジャーナリスト、そして映画以外の友人、その友人からの紹介状を持った未知の人まで、客はたえなかった」という<sup>7)</sup>。

そして、1963年4月28日、療養生活の末に69歳で世界した。

### 3-2. 根岸資料の学術的意義

ここからは、根岸資料自体の説明に移る。

資料は、ダンボール8箱に分けて保管されていた。そのうち7箱には主に根岸寛一の手による日記が、残りの1箱には主に根岸のもとに届いた書簡が収められている。

日記は、1938(昭和13・康德5)年末から1963(昭和38)年にかけて書かれたものである<sup>8)</sup>。つまり、根岸が満映の理事をしていた時期から最晩年までをカバーしている。

満映についての研究には多くの蓄積があり、また資料や証言の掘り起こしもすすめられてきた<sup>9)</sup>。根岸資料は、こうした成果をさらに充実させるものになるだろう。

たとえば、1939年の日記からは、根岸が満映の「職制」や「満映経営大綱」を策定していく様子がうかがえる。

他にも、「星氏の支那史、日本史、大川氏の二千六百年史」(1939年12月29日)という記述も興味深い。「星氏」は、根岸と親しかった星製薬創業者の星一と思われる。植民地台湾や満洲で幅広く事業を展開していた星には、『日本略史』(1937年)や『支那の歴史』(1938年)といった著作があった。なお、彼の息子はSF作家の星新一(本名は親一)である<sup>10)</sup>。「大川氏の二千六百年史」は、アジア主義者として知られる大川周明の『日本二千六百年史』(1939年)のことだろう。

このように、満映の中核にいた人物の実務レベルの言動から読書歴まで、根岸資料は多くのことを教えてくれる。

歴史学者の山室信一によれば、そもそも「満洲国について

ては戦後に書かれた手記や回想録の類こそ膨大な数にのぼるものの、満洲国時代のいわゆる第一次史料は解体時にほとんど焼却され、消失したこともあって史料的に致命的な欠落があるというのが実情である<sup>11)</sup>という。つまり根岸資料は、映画史の空白だけでなく、満洲国の歴史の空白を補う可能性を有している。

また、日本映画社の社団法人から株式会社への改組、あるいは東横映画の設立といった戦後日本映画史上の画期についても、根岸資料によって明らかになってくることがあるはずである。

根岸の日記は、時代が下るにつれて新聞記事の貼付が増えていく。『根岸寛一』には、1950年代以降の根岸について、「彼をたずね、彼の見解や忠告を求めにいった人びとは、〔中略〕彼が、国際問題について、日本社会や経済について、そしてもちろん映画情勢について、もっとも新しい情報と判断とを持っているのにおどろいた。〔中略〕映画の渦中に浸されていて、丘の上から見はるかにしているだけに、的確で、非凡で大局的長期的な先見にみちた観察があった」と書かれている<sup>12)</sup>。実際に日記を見ていくと、仏文学者の桑原武夫、思想史家の武田清子、文芸評論家の江藤淳、社会学者の加藤秀俊、政治学者の猪木正道といった、戦後の論壇で活躍した知識人による執筆記事の貼付を確認することができた。「新しい情報と判断」や「大局的長期的な先見にみちた観察」と表現されていたものが、具体的にどのような構成されていたのかが垣間見える。

なお、1963年2月18日の日記には、「政治家と称する人達にも、未来の映像がないのか、或いは公表するのを憚ってゐるらしく見える。進歩的文化人達の、奥歯に物のはさまったやうな言説が、社会混迷の原因——といふのではなく、混迷した社会の姿がそこに表現されてゐるやうに思はれる」とか「〔昭和〕三十五年の、安保反対の、あの盛り上ったかに見えた国民運動も、本当にバラバラな四分五裂の騒擾に過ぎないと私は今も信じてゐる」といった記述がある。同時代の社会に対する関心の高さは、死の直前まで衰えていなかったようである。

書簡は、大正期から平成期にかけてのものが残っている（根岸の死後、遺族に送られたものも含まれる）。差出人として、すでに登場した直木三十五、古野伊之助、マキノ満男（光雄）、甘粕正彦、星一・新一（親一）親子のほか、根岸の同郷人で新聞記者や衆議院議員として活動した相島勘次郎、早稲田大学野球部監督で「学生野球の父」と呼ば

れた飛田穂洲、プロレタリア文学運動の旗手で評論家の青野季吉、東急グループを率いた実業家の五島慶太・昇親子、東宝の基盤を築いたプロデューサーの森岩雄、脚本家の八木保太郎、映画評論家の清水千代太らの名前が確認でき、根岸の人脈の広さがわかる。

その他、満洲国の身分証明書、領収書、根岸の葬儀の会葬者芳名帳、写真など、多岐にわたる付属資料も興味深い。

#### 4. おわりに

以上、根岸資料について概略を述べてきた。今後は、資料のデジタル化、翻刻、分析といった作業を行っていく必要がある。とくに翻刻や分析は、映画史、メディア史、政治史、軍事史、思想史など、多様な分野の専門家の手によって行なわれることが望ましいだろう。根岸寛一という人物は、さまざまな領域にまたがる存在だったからである。

岩崎昶は、『根岸寛一』のあとがきで、同書について次のように述べていた。

この伝記は、根岸寛一が何をなしたかに焦点をあわせた、いわゆる「正伝」のつもりである。根岸寛一が何であったか、その人間的風格、飄逸、ユーモア、愛情、そのほかをうつし出すには数々の逸話で綴った「外伝」が別に一冊なければ足りないであろう。そして、それは根岸さんを知り、根岸さんと接した人びとがみんなそれぞれの持分を書くことでしか達成できない。<sup>13)</sup>

根岸の死から60年以上が経過し、「根岸さんを知り、根岸さんと接した人びと」の多くが世を去り、あるいは高齢化している時代に、いかなる「外伝」が可能なのかを今後模索していく必要があるだろう。本稿は、そのための第一歩である。

#### 謝辞

長年にわたって根岸資料を保管され、このたび寄託くださった松原純子氏に深く感謝申し上げます。

注

- 1) なお本稿の執筆は、草案を花田が作成し、岡田・根岸が助言や確認を行なうというかたちですすめられた。
- 2) なお小泉丑治は、根岸興行部を立ち上げた根岸浜吉の婿養子であったが、やがて岳父とそりが合わなくなり、旧姓を名乗ったという事情がある(岩崎昶編『根岸寛一』根岸寛一伝刊行会、1969年、33頁)。
- 3) 有馬学「初期満映の活動に関する資料——雑誌『月刊満洲』の映画関連記事・〈資料〉満映シナリオ「壮志燭天」』『朱夏』第22号、2007年10月、45頁。
- 4) 川崎賢子「「外地」の映画ネットワーク——1930-40年代における朝鮮・満洲国・中国占領地域を中心に」山本武利編『岩波講座「帝国」日本の学知 第4巻——メディアのなかの「帝国」』岩波書店、2006年、259頁。
- 5) 岩崎と満映との関わりについては、藤元直樹「満映。をプロデュース——岩崎昶」『映画論叢』第57号、2021年7月が詳しい。
- 6) 『広島・長崎における原子爆弾の影響 [完全版]』クエスト、2010年。
- 7) 岩崎前掲『根岸寛一』、227頁。
- 8) 「康徳」は満洲国の元号である。満洲時代の根岸資料には、しばしば登場する。
- 9) 満映の研究史については、池川玲子「「満洲映画協会」研究史の整理と今後の展望」(『イメージ&ジェンダー』第7号、2007年3月)が参考になる。池川論文よりも後に出た満映に関する研究成果としては、たとえば有馬前掲「初期満映の活動に関する資料」、四方田犬彦／晏妮編『ポスト満洲 映画論——日中映画往還』(人文書院、2010年)、赤上裕幸『ポスト活字の考古学——「活映」のメディア史1911-1958』(柏書房、2013年)、上田学「初期満映について——雑誌『満洲映画』の記事から」(岩本憲児／晏妮編『戦時下の映画——日本・東アジア・ドイツ』森活社、2019年)、藤元前掲「満映。をプロデュース」、王楽『満洲国における宣撫活動のメディア史——満鉄・関東軍による農村部多民族支配のための文化的工作』(新聞通信調査会、2023年)などが挙げられる。また、満映作品シナリオの紹介(有馬前掲「初期満映の活動に関する資料」、満映の宣伝誌『満洲映画』の復刻(白井啓介監修『満洲映画』全8巻、ゆまに書房、2012年)、回想記の出版(岸富美子／石井妙子『満映とわたし』文藝春秋、2015年。のち『満映秘史——栄華、崩壊、中国映画草創』KADOKAWA、2022年として再刊)など、資料の公開も行なわれている。
- 10) 星親子と根岸との関係については、最相葉月『星新一——1001話をつくった人(上)』(新潮社、2010年)を参照。
- 11) 山室信一『キメラ——満洲国の肖像 増補版』中央公論新社、2004年、16頁。
- 12) 岩崎前掲『根岸寛一』、226頁。
- 13) 同前、289頁。

## 根岸寛一資料目録

### 凡例

- ・旧字、異体字、略字は基本的に新字にあらためた。
- ・表中の／は改行を示す。
- ・判読不明箇所は□で、見せ消しは抹消線で示した。
- ・〔 〕は翻刻者による補足である。
- ・資料名について、資料に書かれているものをそのまま用いた場合は鉤括弧で示した。鉤括弧がないものは、翻刻者が付けた名称である。
- ・日記は西暦表記のものと同元号表記(昭和・康徳)のものがあったため、目録に開始年月日と終了年月日とを記載するにあたっては、西暦・元号を併記した。書簡・その他資料の年月日については資料に書かれたとおりの日付とし、不明の場合は消印の日付などを記載した。また、それらの西暦表記・元号表記については、資料に記載

- のとおりとした。
- ・目録では、もとの保管状態を尊重する方針をとっている。そのため、資料をまず箱単位に分けて記載した。加えて、日記に挟まれていた資料や袋に入れられていたものは、日記や袋ごとに配列した。したがって、年代順に並んでいなかったり、資料のカテゴリーごとにまとまっていないものが一部にある。
- ・日記に挟まれていた書簡については、まず「根岸寛一資料目録(日記・その他)」の備考欄に資料名と日付とを記載したうえで、「根岸寛一資料目録(書簡・その他)」にも情報を転記した。
- ・備考欄に登場する「8-67」といった番号は、箱番号と枝番号とを組み合わせた資料番号である。

根岸寛一資料目録(日記・その他)

箱番号	枝番号	資料名	開始年月日	終了年月日	備考
1	1	根岸寛一日記1	1938(昭和13・康徳5)年12月31日	1939(昭和14・康徳6)年12月31日	日記帳として『昭和十四年 康徳六年 満洲日記』(三省堂新京出張所、1938年)を使用。「康徳七年度上半期スケジュール」、メモ、新聞記事切り抜きが挟まる。
1	2	根岸寛一日記2	1940(昭和15・康徳7)年7月7日	1941(昭和16・康徳8)年4月3日	日記帳として縦罫のノートを使用。新聞記事切り抜きが貼付。
1	3	根岸寛一日記3	1940(昭和15・康徳7)年7月7日	1941(昭和16・康徳8)年12月25日	日記帳として縦罫のノートを使用。根岸寛一宛小村隆彦書簡(昭和16年3月19日)、新聞記事切り抜きが挟まる。
1	4	根岸寛一日記4	1940(昭和15・康徳7)年1月1日	1942(昭和17・康徳9)年6月20日	日記帳として縦罫のノートを使用。根岸寛一宛五鬼上堅磐書簡(昭和17年2月26日)、電報(康徳9年2月14日、昭和17年3月26日、康徳9年6月24日、康徳9年6月24日、康徳10年7月7日)、メモ、新聞記事切り抜きが挟まる。
1	5	根岸寛一日記5	1942(昭和17・康徳9)年8月19日	1942(昭和17・康徳9)年11月25日	日記帳として横罫のノートを使用。企画局長宛差出人不記書簡(昭和19年8月14日)、新聞記事切り抜きが挟まる。
1	6	根岸寛一日記6	1942(昭和17・康徳9)年8月26日	1943(昭和18・康徳10)年9月13日	病状の記録が中心。日記帳として縦罫のノートを使用。根岸寛一宛相島口口書簡(昭和18年2月5日)、電報(康徳10年1月24日)、新聞記事切り抜きが挟まる。
1	7	根岸寛一日記7	1942(昭和17・康徳9)年11月26日	1942(昭和17・康徳9)年12月31日	日記帳として縦罫のノートを使用。新聞記事切り抜きが挟まる。
1	8	根岸寛一日記8	1943(昭和18・康徳10)年1月1日	1943(昭和18・康徳10)年12月31日	日記帳として『協和当用日記 康徳十年 昭和十八年』(満洲国通信社業務部、1942年)を使用。根岸寛一宛根岸栄次書簡(年月日不明)、原稿メモ(2-4頁のみ)、「昭和拾壹年九月直営興行成績明細表」、「昭和拾壹年営業成績」、「諸弘準備予定表 11年上期ヲ標準トシタルモノ」、「昭和拾壹年下半期収入予算」、新聞記事切り抜きが挟まる。
1	9	根岸寛一日記9	1943(昭和18・康徳10)年11月5日	1943(昭和18・康徳10)年12月31日	俳句が中心。日記帳として縦罫のノートを使用。新聞記事切り抜きが挟まる。
1	10	根岸寛一日記10	1943(昭和18・康徳10)年	1943(昭和18・康徳10)年	メモが中心。日記帳として横罫のノートを使用。根岸寛一宛満洲文芸家協会書簡(康徳11年2月20日)、メモ、原稿用紙、新聞記事切り抜きが挟まる。
1	11	根岸寛一日記11	1944(昭和19・康徳11)年1月1日	1944(昭和19・康徳11)年12月31日	日記帳として『康徳十一年 新日記』(五星書林、1943年)を使用。根岸寛一宛根岸晶子書簡(昭和19年6月3日)、根岸寛一宛清水千代太書簡(年不明11月9日)、給料袋(星製薬株式会社)、新聞記事切り抜きが挟まる。
1	12	根岸寛一日記12	1944(昭和19・康徳11)年1月1日	1944(昭和19・康徳11)年12月31日	俳句が中心。日記帳として『協和当用日記 康徳十一年 昭和十九年』(満洲国通信社、1943年)を使用。根岸寛一宛相島多気雄書簡(昭和16年11月22日)、根岸寛一宛浅岡信夫書簡(昭和19年8月)、根岸寛一宛根岸晶子書簡(昭和19年9月8日)が挟まる。
1	13	根岸寛一日記13	1945(昭和20・康徳12)年1月1日	1945(昭和20・康徳12)年12月31日	日記帳として『決戦日記』(満洲国通信社、1944年)を使用。米軍の伝単が挟まる。
2	1	根岸寛一日記14	1946(昭和21)年1月1日	1946(昭和21)年3月7日	日記帳として横罫のノートを使用。新聞記事切り抜きが挟まる。
2	2	根岸寛一日記15	1946(昭和21)年3月8日	1946(昭和21)年4月28日	日記帳として横罫のノートを使用。根岸寛一宛星一書簡(昭和21年3月27日)、根岸寛一宛村上さち子書簡(1947年12月13日)、根岸寛一宛村上さち子書簡(年不明1月14日)、立花寛一宛菊池寛書簡(年不明10月6日)、お父さん宛晶子書簡(年不明11月1日)、新聞記事切り抜きが挟まる。
2	3	根岸寛一日記16	1946(昭和21)年4月28日	1946(昭和21)年5月27日	日記帳として横罫のノートを使用。新聞記事切り抜きが挟まる。
2	4	根岸寛一日記17	1946(昭和21)年6月1日	1946(昭和21)年7月4日	日記帳として横罫のノートを使用。兄上宛巳之助書簡(年月日不明)、メモ、新聞記事切り抜きが挟まる。

2	5	根岸寛一日記18	1946（昭和21）年7月4日	1946（昭和21）年8月20日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛結束武二郎書簡（年月不明15日）、「第一封鎖預金等設定申請書」3枚、メモ、新聞記事切り抜きが挟まる。
2	6	根岸寛一日記19	1946（昭和21）年8月21日	1946（昭和21）年10月6日	日記帳として横野のノートを使用。 社長宛加納竜一書簡（年不明9月7日）、根岸寛一宛差出人不記書簡（年不明3月22日）、組織図、メモ4点、新聞記事切り抜きが挟まる。
2	7	根岸寛一日記20	1946（昭和21）年10月6日	1946（昭和21）年11月8日	日記帳として横野のノートを使用。 岩崎昶宛石井信平書簡（昭和43年11月18日）、「東宝従組の新要求をめぐり大澤社長会社側態度を声明」、「覚書」、「領収証」、メモ4点、新聞記事切り抜きが挟まる。
2	8	根岸寛一日記21	1946（昭和21）年11月9日	1946（昭和21）年12月31日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛坂上休次郎書簡（昭和21年12月2日）、岩崎昶宛ソ協会書簡（昭和43年11月13日）、岩崎昶宛前進座書簡（昭和43年11月14日）、根岸寛一宛八幡晴夫書簡（年月不明29日）、根岸寛一宛有賀乙男書簡（年月日不明）、メモ3点、新聞記事切り抜きが挟まる。
2	9	根岸寛一日記22	1947（昭和22）年1月1日	1947（昭和22）年2月18日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛青野季吉書簡（昭和22年1月7日）、根岸寛一宛増井英夫書簡（昭和22年1月13日）、根岸寛一宛相島多気雄書簡（昭和22年1月18日）、根岸寛一宛村上覚書簡（年不明1月13日）、新聞記事切り抜きが挟まる。
2	10	根岸寛一日記23	1947（昭和22）年2月19日	1947（昭和22）年3月23日	日記帳として横野のノートを使用。 「MITCHELL SOUND CAMERA & ACCESSORIES」、新聞記事切り抜きが挟まる。
2	11	根岸寛一日記24	1947（昭和22）年3月23日	1947（昭和22）年4月23日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛村松梢風書簡（昭和22年3月29日）、根岸寛一宛石橋清書簡（年不明3月28日）、根岸寛一宛道満吾書簡（年不明7月25日）、根岸寛一宛八幡晴夫書簡（年月不明26日）、根岸寛一宛八幡晴夫書簡（年月日不明）、根岸寛一宛八幡晴夫書簡（年月日不明）、「渋谷駅案内図」、「顕真学会設立の趣旨」、新聞記事切り抜きが挟まる。
2	12	根岸寛一日記25	1947（昭和22）年4月24日	1947（昭和22）年5月26日	日記帳として横野のノートを使用。 「衆議院議員候補者（第三区）」、新聞記事切り抜きが挟まる。
2	13	根岸寛一日記26	1947（昭和22）年5月27日	1947（昭和22）年6月21日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛澤邊幸書簡（昭和22年6月16日）、根岸寛一宛岡栄一郎書簡（年不明6月2日）、根岸寛一宛八幡博堂書簡（年月日不明）、「専売局員との会合」、「合同通信（第三種認可）昭和廿二年六月十四日第四一五七号」、新聞記事切り抜きが挟まる。
2	14	根岸寛一日記27	1947（昭和22）年6月21日	1947（昭和22）年7月18日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛中村司【中村強司？】書簡（昭和22年7月1日）、メモ2点、葉、賞与明細（星製菓株式会社）、「合同通信（第三種認可）昭和廿二年十二月廿九日第四〇一二号」、新聞記事切り抜きが挟まる。
2	15	根岸寛一日記28	1947（昭和22）年7月18日	1947（昭和22）年8月4日	日記帳として横野のノートを使用。
2	16	根岸寛一日記29	1947（昭和22）年8月5日	1947（昭和22）年9月8日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛倉田文人書簡（昭和22年8月16日）、お父さん宛あき子書簡（年月日不明）、「長期取引差金計算書」が挟まる。
2	17	根岸寛一日記30	1947（昭和22）年9月6日	1948（昭和23）年1月14日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛飛田穂洲書簡（昭和23年1月9日）、「株式配分案」2枚、名刺（浅岡信夫）、「履歴書」、「合同通信（第三種認可）昭和廿三年十一月八日第四一五五号」が挟まる。
2	18	根岸寛一日記31	1947（昭和22）年9月9日	1947（昭和23）年10月14日	日記帳として横野のノートを使用。 電報（昭和22年10月4日、昭和22年10月9日）、根岸寛一宛結束武二郎書簡（年不明9月10日）、メモが挟まる。
2	19	根岸寛一日記32	1947（昭和22）年10月15日	1948（昭和23）年1月6日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛根岸晶子書簡（年不明1月13日）が挟まる。
2	20	根岸寛一日記33	1948（昭和23）年1月15日	1948（昭和23）年2月17日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛五島書簡（年月不明13日）、給与明細、「映演労働者号外1948・2・3発行」新聞記事切り抜きが挟まる。
2	21	根岸寛一日記34	1948（昭和23）年2月18日	1948（昭和23）年4月15日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛真船進書簡（昭和23年3月11日）、根岸寛一宛相島口書簡（年不明2月2日）、根岸寛一宛坂東衛書簡（年不明3月11日）、根岸すみ宛村上晶子書簡（年不明4月10日）、根岸寛一宛□□□□書簡（年月日不明）、「計算書」、新聞記事切り抜きが挟まる。
2	22	根岸寛一日記35	1948（昭和23）年3月15日	1948（昭和23）年4月8日	日記帳として横野のノートを使用。 電報（年不明3月20日付）、「領収書」、新聞記事が挟まる。
2	23	根岸寛一日記36	1948（昭和23）年4月8日	1948（昭和23）年5月5日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛相島口書簡（昭和23年5月3日）、根岸寛一宛有賀乙男書簡（昭和23年5月6日）、根岸寛一宛星一書簡（年月日不明）、新聞記事切り抜きが挟まる。
2	24	根岸寛一日記37	1948（昭和23）年5月6日	1948（昭和23）年5月31日	日記帳として横野のノートを使用。 「株式申込書」、メモ、新聞記事切り抜きが挟まる。
2	25	根岸寛一日記39	1948（昭和23）年6月11日	1948（昭和23）年9月18日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸伯父上宛有賀乙男書簡（昭和23年9月2日）、根岸寛一宛有賀乙男書簡（昭和23年9月8日）、宛先不記黒川書簡（年月日不明）、「合同通信（第三種認可）昭和廿三年九月八日第四二一二号」が挟まる。
2	26	根岸寛一宛有賀乙男書簡	昭和23年8月2日		
2	27	新聞記事切り抜き			英字新聞。
3	1	根岸寛一日記38	1948（昭和23）年6月1日	1948（昭和23）年7月2日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛江守清樹郎書簡（昭和23年5月30日）、根岸寛一宛桂興業株式会社書簡（年不明6月28日）、証券、新聞記事切り抜きが挟まる。

3	2	根岸寛一日記40	1948（昭和23）年7月2日	1948（昭和23）年7月21日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛有賀八重子書簡（昭和23年7月19日）、根岸寛一宛相島多気雄書簡（年不明7月18日）、根岸親爺殿宛マキノ満男書簡（年月不明17日）、一円札、新聞記事切り抜きが挟まる。
3	3	根岸寛一日記41	1948（昭和23）年7月22日	1948（昭和23）年8月12日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛古野書簡（年不明7月29日）、給与明細（吉本興業株式会社）、メモ2点、新聞記事切り抜きが挟まる。
3	4	根岸寛一日記42	1948（昭和23）年8月12日	1948（昭和23）年9月18日	日記帳として横野のノートを使用。 知事宛星一書簡（昭和23年7月5日）、根岸宛伊藤義書簡（年月日不明）、「いも加工技術者養成所設立趣意書」、「東宝ファン・都民の皆さま」、「製作原価収入参考資料」、「給配収入原価対比表」、新聞記事切り抜きが挟まる。
3	5	根岸寛一日記43	1948（昭和23）年9月19日	1948（昭和23）年10月23日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛有賀乙男書簡（昭和23年9月19日）、根岸寛一宛本橋秀三書簡（昭和23年9月20日）、電報（昭和23年10月5日）、根岸寛一宛結束武二郎書簡（昭和23年10月12日）、電報（昭和23年10月12日）、根岸寛一宛青野季吉書簡（昭和23年10月13日）、根岸寛一宛青野季吉書簡（昭和23年10月25日）、根岸寛一宛飛田穂洲書簡（昭和23年10月29日）、電報（昭和23年11月20日）、根岸寛一宛村岡清書簡（年不明9月12日）、根岸伯父上宛有賀乙男書簡（年不明9月27日）、根岸寛一宛前田道雄書簡（年不明10月13日）、根岸宛上村書簡（年不明10月29日）、根岸寛一宛有賀乙男書簡（年不明11月14日）、根岸寛一宛村上さち子書簡（年不明12月30日）、根岸親爺殿宛満男書簡（年月不明5日）、根岸寛一宛有賀乙男書簡（年月日不明）、兄上宛巳之助書簡（年月日不明）、宛先不記差出人不記書簡2点、「合同通信（第三種認可）昭和廿三年十月二日第四五三〇号」、「合同通信（第三種認可）昭和廿三年十月四日第四五三一号」、「合同通信（第三種認可）昭和廿三年十月四日第四五三二一號」、「合同通信（第三種認可）昭和廿三年十月四日第四五三三〇号」、「合同通信（第三種認可）昭和廿三年十月六日第四五三三三號」、「合同通信（第三種認可）昭和廿三年十月七日第四五三四四号」、「合同通信（第三種認可）昭和廿三年十月八日第四五三五五号」、「合同通信（第三種認可）昭和廿三年十月廿一日第四五四六号」、領収書、証券、「東横映達昭二十三年第七号 職制改正の件」、メモ、「請負製作採算見込表」、「製作標準原価表」、「請負製作費算定資料」、「撮影所諸設備増強計画案」、「設備増強案一部説明」、「増員人員表」、「人員配置表」、「告訴状」、が挟まる。
3	6	根岸寛一日記44	1948（昭和23）年10月15日	1948（昭和23）年11月22日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛相島口口書簡（昭和23年11月1日）、根岸親爺殿宛満男書簡（年不明10月18日）、メモ2点が挟まる。
3	7	根岸寛一日記45	1948（昭和23）年10月24日	1949（昭和24）年3月13日	日記帳として横野のノートを使用。
3	8	根岸寛一日記46	1948（昭和23）年11月23日	1948（昭和23）年12月31日	日記帳として横野のノートを使用。 メモ2点、新聞記事切り抜きが挟まる。
3	9	根岸寛一日記47	1949（昭和24）年1月1日	1949（昭和24）年1月31日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛森岩雄書簡（昭和24年1月1日）、根岸寛一宛松口竹一（松岡竹一？）書簡（昭和24年1月22日）、根岸寛一宛岡富久子書簡（昭和24年1月25日）、根岸寛一宛本橋秀三書簡（昭和24年6月24日）、根岸宛松本金作書簡（年不明5月13日）、根岸寛一宛高橋秀夫書簡（年不明6月22日）、根岸寛一宛村上晶子書簡（年不明6月23日）、根岸寛一宛村上晶子書簡（年月日不明）、根岸宛岡書簡（年月日不明）、メモ4点、伝票、約束手形、新聞記事切り抜きが挟まる。
3	10	根岸寛一日記48	1949（昭和24）年2月1日	1949（昭和24）年5月25日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛青野季吉書簡（昭和24年2月7日）、メモ、新聞記事切り抜きが挟まる。
3	11	根岸寛一日記49	1949（昭和24）年3月14日	1949（昭和24）年4月14日	日記帳として横野のノートを使用。 「証拠書類作成要領」、メモ、新聞記事切り抜きが挟まる。
3	12	根岸寛一日記50	1949（昭和24）年4月15日	1949（昭和24）年5月15日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛古野伊之助書簡（昭和24年4月7日）、根岸宛伊藤義書簡（年不明5月12日）、領収書、「電話番号選定通知について」、メモ2点、新聞記事切り抜きが挟まる。
3	13	根岸寛一日記51	1949（昭和24）年5月26日	1949（昭和24）年6月25日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛有賀乙男書簡（昭和24年6月7日）、根岸寛一宛青野季吉書簡（昭和24年6月13日）、根岸寛一宛口口口口書簡（昭和24年8月11日）、根岸寛一宛本橋秀三書簡（年不明6月10日）、根岸寛一宛古野伊之助書簡（年不明6月13日）、根岸寛一宛青野季吉書簡（年月不明23日）、メモ、「対大映交渉についての私案」、「領収証書」3点、「売買報告書」、「請求書」、新聞記事切り抜きが挟まる。
3	14	根岸寛一日記52	1949（昭和24）年6月28日	1949（昭和24）年8月31日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和24年8月14日）、根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和24年8月23日）、根岸宛富地書簡（年月日不明）が挟まる。
3	15	根岸寛一日記53	1949（昭和24）年9月1日	1949（昭和24）年10月31日	日記帳として横野のノートを使用。
3	16	根岸寛一日記54	1949（昭和24）年9月19日？	1950（昭和25）年5月11日？	俳句が中心。 日記帳として横野のノートを使用。
3	17	根岸寛一日記55	1949（昭和24）年10月30日	1950（昭和25）年1月28日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛赤沼茂芳書簡（昭和24年10月27日）、根岸寛一宛五島慶太書簡（年月不明31日）、新聞記事切り抜きが挟まる。
3	18	根岸寛一日記56	1950（昭和25）年1月28日	1950（昭和25）年4月14日	日記帳として横野のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。
3	19	根岸寛一日記57	1950（昭和25）年4月15日	1950（昭和25）年6月10日	日記帳として横野のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。
3	20	根岸寛一日記58	1950（昭和25）年6月11日	1950（昭和25）年7月31日	日記帳として横野のノートを使用。
3	21	根岸寛一日記59	1950（昭和25）年8月1日	1950（昭和25）年10月2日	日記帳として横野のノートを使用。
3	22	根岸寛一日記60	1950（昭和25）年12月20日	1952（昭和27）年4月12日	俳句が中心。 日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛佐治乾書簡（昭和27年2月4日）が挟まる。
3	23	根岸寛一日記61	1950（昭和25）年6月26日	1951（昭和26）年9月19日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸宛差出人不記書簡（年月日不明）、メモが挟まる。
3	24	栞			

4	1	根岸寛一日記62	1952（昭和27）年1月1日	1952（昭和27）年3月31日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和27年2月8日）、根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和27年3月23日）、根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和27年3月28日）、根岸寛一宛村上晶子書簡（年不明2月13日）、新聞記事切り抜きが挟まる。
4	2	根岸寛一日記63	1952（昭和27）年4月1日	1952（昭和27）年11月8日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和27年1月5日）、自由ヶ丘名画座チラシ、メモが挟まる。
4	3	根岸寛一日記64	1952（昭和27）年4月15日	1952（昭和27）年5月24日	病状の記録が中心。 日記帳として横野のノートを使用。
4	4	根岸寛一日記65	1952（昭和27）年11月9日	1953（昭和28）年1月25日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛森岩雄書簡（昭和27年8月6日）、根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和27年11月3日）、根岸寛一宛赤沼茂芳書簡（昭和27年12月11日）、父上宛書簡（年不明10月28日）、お父さん宛晶子書簡（年不明10月28日）、「ガス需要家の皆様へ」、新聞記事切り抜きが挟まる。
4	5	根岸寛一日記66	1953（昭和28）年1月25日	1953（昭和28）年3月24日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和28年2月15日）、根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和28年2月20日）、根岸寛一宛結束書簡（昭和28年3月5日）、根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和28年3月7日）、根岸寛一宛有賀乙男書簡（昭和28年3月19日）、東京電力チラシ、毎日新聞チラシ、産経新聞チラシ、新聞記事切り抜きが挟まる。
4	6	根岸寛一日記67	1953（昭和28）年3月25日	1953（昭和28）年5月31日	日記帳として横野のノートを使用。 新聞記事切り抜きが挟まる。
4	7	根岸寛一日記68	1953（昭和28）年6月1日	1953（昭和28）年9月1日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛佐治乾書簡（昭和28年8月7日）、新聞記事切り抜きが挟まる。
4	8	根岸寛一日記69	1953（昭和28）年6月22日	1953（昭和28）年11月9日	病状の記録と俳句が中心。 日記帳として横野のノートを使用。 写真、メモ（村上晶子日記？）、新聞記事切り抜きが挟まる。
4	9	根岸寛一日記70	1953（昭和28）年9月1日	1953（昭和28）年12月31日	日記帳として横野のノートを使用。 九品仏書店チラシ、三越チラシが挟まる。
4	10	根岸寛一日記71	1954（昭和29）年1月1日	1954（昭和29）年2月28日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛ジョン S.田中書簡（昭和29年1月30日）、根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和29年2月20日）、根岸寛一宛坂垣武男書簡（昭和29年2月22日）、根岸寛一宛村上晶子書簡（年不明2月17日）、「売報告書」、新聞記事切り抜きが挟まる。
4	11	根岸寛一日記72	1954（昭和29）年3月1日	1954（昭和29）年10月12日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛結束武二郎書簡（昭和29年8月4日）、根岸すみ宛村上晶子書簡（昭和29年8月5日）、根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和29年8月6日）、「新聞定価改正に就きお願い」、「東京名物本舗東都のれん会の志を呈」、メモ（根岸寛一日記？）、新聞記事切り抜きが挟まる。
4	12	根岸寛一日記73	1954（昭和29）年3月6日	1954（昭和29）年4月25日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和29年3月10日）、根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和29年3月11日）、「東京都お知らせ版 NO.34」が挟まる。
4	13	根岸寛一日記74	1954（昭和29）年4月26日	1954（昭和29）年6月11日	日記帳として横野のノートを使用。 「会社より沿線乗客の皆様へ」が挟まる。
4	14	根岸寛一日記75	1954（昭和29）年6月12日	1954（昭和29）年7月22日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和29年7月4日）、「新株発行についての御通知」、「全織は社会党右派の看板で実際は共産党戦術を用いている」、「暴力と脅迫による既成事実を承認するのか」、人形教室チラシが挟まる。
4	15	根岸寛一日記76	1954（昭和29）年10月12日	1954（昭和29）年12月28日	日記帳として横野のノートを使用。 「合同通信（第三種認可）昭和廿九年十月廿六日第六四〇一号」、三越チラシ、手書きイラスト（むらかみじゅんこ）が挟まる。
4	16	根岸寛一日記77	1954（昭和29）年12月26日	1955（昭和30）年3月17日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛結束書簡（昭和30年2月16日）、根岸寛一宛有賀乙男書簡（昭和30年2月16日）、根岸寛一宛けいこ書簡（昭和31年8月29日）、根岸寛一・すみ宛むらかみじゅんこ書簡（昭和31年8月29日）、根岸寛一宛青野季吉書簡（昭和31年10月31日）、根岸寛一宛赤沼茂芳書簡（昭和31年11月1日）、手書きイラスト（じゅんこ）、「国際通信第一七〇一号十月廿五日（木）第三種認可」、栄養剤チラシ、新聞記事切り抜きが挟まる。
4	17	根岸寛一日記78	1955（昭和30）年3月16日	1955（昭和30）年6月14日	日記帳として横野のノートを使用。 「声明書」、新聞記事切り抜きが挟まる。
4	18	根岸寛一日記82	1956（昭和31）年4月14日	1956（昭和31）年8月6日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛映画旬刊編集委員会書簡（昭和31年6月）、根岸寛一宛金澤書簡（年不明7月12日）、根岸親父殿宛マキノ光雄書簡（年月日不明）、「国際通信第一五九五号六月廿三日（金）第三種認可」、手書きイラスト2点、メモ2点、渋谷東横チラシ、アサヒシールドルチラシ、「暑中御見舞申し上げます」、新聞記事切り抜きが挟まる。
4	19	根岸寛一日記83	1956（昭和31）年8月7日	1956（昭和31）年11月21日	日記帳として横野のノートを使用。 裏表紙が欠落。 共同募金チラシが挟まる。
4	20	芳名帳			写真が挟まる。
4	21	大奥様宛赤川孝一書簡	昭和61年9月24日		
4	22	写真			10点。いずれも裏側にメモ記載。
5	1	根岸寛一日記79	1955（昭和30）年6月15日	1955（昭和30）年9月14日	日記帳として横野のノートを使用。 根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和30年6月13日）、根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和30年6月13日）、根岸寛一宛村上晶子書簡（昭和30年9月5日）、三越チラシ、東京都新聞販売同業組合チラシ、『幻の馬』チラシ、自由ヶ丘洋裁学院チラシ、「各館時間別入場人員表」、柏屋本店チラシ、新聞記事切り抜きが挟まる。
5	2	根岸寛一日記80	1955（昭和30）年9月15日	1955（昭和30）年12月31日	日記帳として横野のノートを使用。 宛先不記差出人不記書簡（昭和31年クリスマス）、メモ、三井銀行チラシ、「日本人同胞に撒す!!!」、「ヴァイオリン演奏会」、三越チラシ、俳句が印刷された紙2点、手書きイラスト（むらかみじゅんこ）、メモ3点、「取扱商品価格表」、理髪店チラシ、「小田急特急時刻表」、「10月の小田急」、歌舞伎優待券が挟まる。

5	3	根岸寛一日記81	1956 (昭和31) 年1月1日	1956 (昭和31) 年4月13日	日記帳として横罫のノートを使用。 根岸寛一宛村上晶子書簡 (昭和31年1月3日)、根岸寛一宛川島延子書簡 (昭和31年1月10日)、根岸寛一宛村上晶子書簡 (昭和31年2月17日)、根岸寛一宛山口原一〇 (漆原一衛?) 書簡 (昭和31年3月30日)、「健康保険の危機!!」、「賃上げ闘争に当り、訴える」、大倉山梅林チラシ、「純子がくれた忍術の極意書」、「東部軍管区情報解説要図」、新聞記事切り抜きが挟まる。
5	4	根岸寛一日記84	1956 (昭和31) 年11月22日	1957 (昭和32) 年2月18日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛むらかみじゅんこ書簡 (昭和31年12月20日)、おじいちゃん宛じゅんこ書簡 (昭和31年12月26日)、根岸すみ宛村上じゅんこ書簡 (昭和31年月日不明)、根岸すみ宛村上純子書簡 (昭和32年1月9日)、おばあちゃん宛じゅんこ書簡 (年不明12月11日)、メモ2点、「合同通信映画特信版第586号」、「大忠臣蔵」特別鑑賞券、手書きイラスト、ハガキの切れ端を使ったおもちゃ、渋谷東横チラシ、「封切館日計表」3点が挟まる。
5	5	根岸寛一日記85	1957 (昭和32) 年2月18日	1957 (昭和32) 年5月8日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 「封切館日計表」、手書きイラスト、「国際通信第一八一七号三月二十日 (水) 第三種認可」、「国際通信第一八九号三月廿三日 (土) 第三種認可」、「国際通信第一八二一〇号三月廿六日 (火) 第三種認可」、「合同通信 (第三種認可) 昭和廿二年四月廿日第七一四三号」、「議決権代理公使の勧誘に関する参考書類」、「日映払込金 (四月十五日現在)」、新聞記事切り抜きが挟まる。
5	6	根岸寛一日記86	1957 (昭和32) 年5月9日	1957 (昭和32) 年9月16日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一・すみ宛むらかみじゅんこ書簡 (年月日不明)、原稿メモ、小原耳鼻咽喉科医院チラシ、手書きイラスト2点、字の練習用紙、新聞記事切り抜きが挟まる。
5	7	根岸寛一日記87	1957 (昭和32) 年9月17日	1957 (昭和32) 年12月31日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 宛先不記啓子書簡 (昭和32年11月19日)、Grand father・Grand mother宛Junko書簡 (1957年12月21日)、根岸宛金澤書簡 (年不明9月20日)、根岸伯父上宛有賀正剛書簡 (年不明10月2日)、根岸宛清水千代太書簡 (年不明12月26日)、根岸寛一宛村上純子書簡 (年月日不明)、おばあちゃん宛むらかみじゅんこ書簡 (年月日不明)、結婚披露宴カード (山梨稔・小畑敏一のメッセージ記入)、手書きイラスト2点、誕生日カード (Murakami Junko)、「国際通信第一九八九号十月十一日 (金) 第三種認可」、「国際通信第二〇三〇号十一月廿九日 (金) 第三種認可」、「合同通信映画特信版第639号」、「合同通信映画特信版第640号」、モンブランチラシ、「昭和三十二年度トモエ幼稚園秋季運動会プログラム」、「国際通信第一九六二〇号九月九日 (月) 第三種認可」、東光ストアチラシ、新聞記事切り抜きが挟まる。
5	8	根岸寛一日記88	1958 (昭和33) 年1月1日	1958 (昭和33) 年4月30日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛青野季吉書簡 (昭和33年4月9日)、根岸寛一宛輕部修書簡 (昭和33年4月13日)、「国際通信第二〇六四号一月十七日 (金) 第三種認可」、「第十七回定時株主総会招集御通知」、「第75回定時株主総会招集御通知」、手書きイラスト2点、多摩川園劇場チラシ、「私鉄バス御利用の皆様へ」、新聞記事切り抜きが挟まる。
5	9	根岸寛一日記89	1958 (昭和33) 年5月1日	1958 (昭和33) 年8月31日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛板垣武男書簡 (年不明5月6日)、手書きイラスト、字の練習用紙、モンブランチラシ4点、「封切館日計表」5点、「封切館週計表」3点、新聞記事切り抜きが挟まる。
5	10	根岸寛一日記90	1958 (昭和33) 年9月1日	1958 (昭和33) 年12月30日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛根岸浜男書簡 (昭和33年9月22日)、「国際通信第二三四五号十二月十八日第三種郵便物認可」、「合同通信 (第三種認可) 昭和卅三年十二月八日第七六三七号」、手書きイラスト2点、字の練習用紙、宝電機チラシ、新聞記事切り抜きが挟まる。
5	11	根岸すみ日記?	1967 (昭和42) 年6月1日	1971 (昭和46) 年8月1日	日記帳としてルーズリーフを使用。
5	12	「国際通信第一六四六号八月廿二日 (水) 第三種認可」			
5	13	手書きイラスト			
5	14	手書きイラスト			
5	15	手書きイラスト			
5	16	芳名帳			新聞記事切り抜きが挟まる。
5	17	「第二東映について、心に浮ぶ事」			根岸寛一の手によるもの?
5	18	ノート裏表紙			根岸寛一日記83の裏表紙?
6	1	根岸寛一日記91	1958 (昭和33) 年12月30日	1959 (昭和34) 年4月30日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛森田久書簡 (昭和34年4月20日)、「国際通信 第二四二三号 34年3月28日 第三種郵便認可」、「国際通信 第二四三〇号 34年4月6日 第三種郵便認可」、手書きイラスト、字の練習用紙、新聞記事切り抜きが挟まる。
6	2	根岸寛一日記92	1959 (昭和34) 年5月1日	1959 (昭和34) 年8月20日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛村上純子書簡 (昭和34年1月1日)、根岸寛子宛村上純子書簡 (昭和34年1月1日)、宛先不記市川敏・石橋清・森本太真夫・義・金澤書簡 (年月日不明)、「協定条項」、東京テレビ技術株式会社チラシ、モンブランチラシ、富士銀行チラシ、メモ (日記?)、渋谷東横チラシ、新聞記事切り抜きが挟まる。

6	3	根岸寛一日記93	1959 (昭和34) 年8月21日	1959 (昭和34) 年11月30日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛本橋力之輔書簡 (昭和34年9月2日)、根岸寛一宛五島昇書簡 (昭和34年9月8日)、根岸寛一宛五島上堅磐書簡 (昭和34年9月18日)、貴伯父上宛宏二書簡 (昭和34年11月10日)、根岸寛一宛たけ雄書簡 (年不明10月11日)、宛先不記伊藤義・保太郎・吐夢・清山憲書簡 (年月日不明)、「現代通信第207号昭和34年8月18日 (火) 第三種認可」2点、手書きイラスト、「完全休業実施の御願い」2点、新聞記事切り抜きが挟まる。
6	4	根岸寛一日記94	1959 (昭和34) 年12月1日	1960 (昭和35) 年3月19日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛黒川涉三書簡 (昭和35年2月1日)、根岸寛一宛江守清樹郎書簡 (昭和35年3月17日)、宛先不記Murakami Junko書簡 (年月日不明)、手書きイラスト (むらかみけいこ)、新聞記事切り抜きが挟まる。
6	5	根岸寛一日記95	1960 (昭和35) 年3月20日	1960 (昭和35) 年6月17日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛五島昇書簡 (昭和35年4月6日)、自由民主党演説会チラシ、新聞記事切り抜きが挟まる。
6	6	根岸寛一日記96	1960 (昭和35) 年6月18日	1960 (昭和35) 年9月14日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛飛田徳洲書簡 (昭和35年7月13日)、根岸寛一・ひろ子・すみ宛村上純子書簡 (昭和35年7月20日)、根岸寛一宛飛田徳洲書簡 (昭和35年7月30日)、「1960七月十一日大谷博氏口言メモ」、新聞記事切り抜きが挟まる。
6	7	根岸寛一日記97	1960 (昭和35) 年9月15日	1960 (昭和35) 年12月3日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛高橋秀夫書簡 (昭和35年10月4日)、根岸寛一宛針木康雄書簡 (昭和35年11月5日)、根岸寛一宛高橋秀夫書簡 (昭和35年11月8日)、根岸寛一宛高橋秀夫書簡 (昭和35年12月2日)、「共立通信 第二五七七号 35年12月1日 (木) 第三種郵便物認可」、新聞記事切り抜きが挟まる。
6	8	根岸寛一日記98	1960 (昭和35) 年12月4日	1961 (昭和36) 年2月17日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛五島昇書簡 (昭和36年1月6日)、根岸寛子宛佐藤豊口書簡 (平成6年12月13日)、根岸寛子宛中村瑛子書簡 (平成6年4月12日)、根岸宛高橋秀夫書簡 (年不明12月15日)、根岸寛一宛有賀正剛書簡 (年不明12月19日)、根岸寛一宛五島昇書簡 (年月不明8日)、根岸寛子宛若佐美世書簡 (年月日不明)、「現代通信 第539号 昭和36年1月21日 (土) 第三種郵便物認可」、溝口映画チェーンチラシ、新聞記事切り抜きが挟まる。
6	9	根岸寛一日記102	1961 (昭和36) 年11月1日	1962 (昭和37) 年1月16日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛高橋秀夫書簡 (昭和36年11月26日)、根岸寛一宛高橋秀夫書簡 (昭和36年12月12日)、東光のれん街チラシ、「韓国に於ける言論人の救命と学生達の釈放運動に御支援下さい」、燃料価格表、伊豆急行チケット、新聞記事切り抜きが挟まる。
7	1	根岸寛一日記99	1961 (昭和36) 年2月18日	1961 (昭和36) 年5月23日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛江守清樹郎書簡 (昭和36年2月20日)、根岸すみ宛竹下トモ子書簡 (昭和36年3月5日)、根岸寛一宛江守清樹郎書簡 (昭和36年4月15日)、根岸寛一宛岡村二一書簡 (昭和36年5月12日)、手書きイラスト (村上純子)、請求書、モンブランチラシ、新聞記事切り抜きが挟まる。
7	2	根岸寛一日記100	1961 (昭和36) 年5月24日	1961 (昭和36) 年8月10日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛皇親一書簡 (年不明7月8日)、「国際通信 第三一九号 36年7月25日 第三種郵便物認可」、「現代通信 第696号 昭和36年7月29日 (土) 第三種郵便物認可」2枚、「現代通信 第702号 昭和36年8月5日 (土) 第三種郵便物認可」、三菱銀行チラシ、新聞記事切り抜きが挟まる。
7	3	根岸寛一日記101	1961 (昭和36) 年8月10日	1961 (昭和36) 年10月31日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 インミン説明書、ハイミナル説明書、新聞記事切り抜きが挟まる。
7	4	根岸寛一日記103	1962 (昭和37) 年1月17日	1962 (昭和37) 年4月6日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 『メトロニュース no.8』、新聞記事切り抜きが挟まる。
7	5	根岸寛一日記104	1962 (昭和37) 年4月7日	1962 (昭和37) 年7月12日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 『101匹わんちゃん大行進』チラシ、ハガキの一部 (岩崎純宛?)、新聞記事切り抜きが挟まる。
7	6	根岸寛一日記105	1962 (昭和37) 年7月13日	1962 (昭和37) 年10月15日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛晶子書簡 (昭和37年7月29日)、根岸すみ宛晶子書簡 (昭和37年7月29日)、根岸寛一宛村上啓子書簡 (昭和37年8月3日)、根岸寛一宛高橋秀夫書簡 (昭和37年9月16日)、根岸寛一宛村上啓子書簡 (年月日不明)、東宝株主総会資料、ヒカリ座チラシ、新聞記事切り抜きが挟まる。
7	7	根岸寛一日記106	1962 (昭和37) 年10月16日	1962 (昭和37) 年12月8日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 メモ3点、蒲田東口映画街・川崎映画街チラシ、新聞記事切り抜きが挟まる。

7	8	根岸寛一日記 107	1962（昭和37）年12月9日	1963（昭和38）年2月18日	日記帳として横罫のノートを使用。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛高橋秀夫書簡（昭和38年1月31日）、根岸寛一宛高橋秀夫書簡（昭和38年2月4日）、川崎市民映画コンクールチラシ、鹿島田映劇チラシ、メモ、新聞記事切り抜きが挟まる。
7	9	根岸寛一日記 108	1963（昭和38）年2月18日	1963（昭和38）年4月3日	日記帳として横罫のノートを使用。外側に不二屋書店のブックカバーを付けたうえで文明堂の包装紙も重ねている。 新聞記事切り抜きが貼付。 根岸寛一宛村上純子書簡（昭和38年3月18日）、根岸寛一宛高橋秀夫書簡（昭和38年3月22日）、ハガキ2枚で1セット）、根岸寛一宛飛田穂洲書簡（昭和38年3月25日）、根岸寛一宛相島多気雄書簡（昭和38年3月27日）、根岸寛一宛銭谷功書簡（昭和38年3月28日）、根岸寛一宛森田久書簡（昭和38年4月19日）、根岸寛一宛江守清樹郎書簡（1963年3月23日）、粕谷商会チラシ、メモ8点、「川崎蒲田地区成績表」、「世界残酷物語」チラシ、押し花2点、「『通信社史』続刊についてお願い」、「共立通信第三二五二号 38年3月27日（水）第三種郵便物認可」、「共立通信第三二五二号 38年3月28日（木）第三種郵便物認可」2枚、「合同通信（第三種認可）昭和廿八年三月廿八日第八九二一號」、「御報告」、新聞記事切り抜きが挟まる。
7	10	活字版根岸寛一日記108	1963（昭和38）年2月18日	1963（昭和38）年3月4日	根岸寛一日記108の一部を活字化したもの。翻刻者は不明。

根岸寛一資料目録（書簡・その他）

箱番号	枝番号	資料種別	資料名	年月日	宛先	差出人	根岸寛一日記 巻番号	備考
8	1	書簡	根岸寛一宛相島勘次郎書簡	大正13年5月28日	根岸寛一	相島勘次郎		封筒のみ。
8	2	書簡	根岸寛一宛相島勘次郎書簡	大正13年7月20日	根岸寛一	相島勘次郎		封筒のなかには「16日」と「20日」の書簡が封入。
8	3	書簡	立花寛一宛相島勘次郎書簡	大正13年9月11日	立花寛一	相島勘次郎		
8	4	書簡	立花寛一宛相島勘次郎書簡	大正13年10月16日	立花寛一	相島勘次郎		封筒のみ。
8	5	書簡	立花寛一宛直木三十三書簡	大正14年2月3日	立花寛一	直木三十三		
8	6	書簡	立花寛一宛直木三十三書簡	大正14年3月20日	立花寛一	直木三十三		封筒の外側にクリップで留められたメモ付き（家族によるものか）。
8	7	書簡	立花寛一宛直木三十三書簡	大正14年3月21日	立花寛一	直木三十三		封筒の外側にクリップで留められたメモ付き（家族によるものか）。
8	8	書簡	立花寛一宛差出人不記書簡	大正14年3月〇日	立花寛一	不記（直木三十五？）		封筒のみ。
8	9	書簡	寛一宛直木三十三書簡	大正14年4月25日	寛一	直木三十三		封筒の外側にクリップで留められたメモ付き（家族によるものか）。
8	10	書簡	立花寛一宛直木三十三書簡	大正14年5月1日	立花寛一	直木三十三		封筒の外側にクリップで留められたメモ付き（家族によるものか）。書簡合計3点が同封。
8	11	書簡	根岸寛一宛直木書簡	大正14年5月2日	根岸寛一	直木		
8	12-1	書簡	寛一宛三十三書簡	大正14年6月8日	寛一	三十三		封筒の外側にクリップで留められたメモ付き（家族によるものか）。 8-12-1、8-12-2が同封。
8	12-2	書簡	寛一宛宗一書簡	大正14年6月8日	寛一	宗一		封筒の外側にクリップで留められたメモ付き（家族によるものか）。 8-12-1、8-12-2が同封。
8	13-1	書簡	立花寛一宛直木三十五書簡	大正14年6月25日	立花寛一	直木三十五		8-13-1、8-13-2が同封。
8	13-2	書簡	立花寛一宛直木三十五書簡	大正14年6月25日	立花寛一	直木三十五		8-13-1、8-13-2が同封。
8	14	書簡	立花寛一宛宗一書簡	大正14年7月6日	立花寛一	宗一		封筒の外側にクリップで留められたメモ付き（家族によるものか）。 「宗一」は直木三十五の本名。
8	15	書簡	立花寛一宛直木三十三書簡	大正14年7月12日	立花寛一	直木三十三		封筒の外側にクリップで留められたメモ付き（家族によるものか）。 書簡合計2点が同封。
8	16	書簡	立花寛一宛直木三十三書簡	大正14年7月23日	立花寛一	直木三十三		封筒の外側にクリップで留められたメモ付き（家族によるものか）。
8	17	書簡	立花寛一宛直木書簡	大正14年7月26日	立花寛一	直木		封筒のみ。
8	18	書簡	立花寛一宛直木書簡	大正14年8月20日	立花寛一	直木		封筒の外側にクリップで留められたメモ付き（家族によるものか）。
8	19-1	書簡	直木三十三宛小澤得三書簡	大正14年9月2日	直木三十三	小澤得三		8-19-1、8-19-2、8-19-3が同封。
8	19-2	書簡	立花宛直木書簡	年月日不明4日	立花	直木		8-19-1、8-19-2、8-19-3が同封。
8	19-3	書簡	寛宛直木三十三書簡	年月不明25日	寛	直木三十三		8-19-1、8-19-2、8-19-3が同封。
8	20	書簡	立花寛一宛相島勘次郎書簡	昭和4年3月13日	立花寛一	相島勘次郎		
8	21	書簡	立花寛一宛相島勘次郎書簡	昭和4年3月30日	立花寛一	相島勘次郎		
8	22	書簡	立花寛一宛相島勘次郎書簡	昭和4年8月31日	立花寛一	相島勘次郎		
8	23	書簡	立花寛一宛相島勘次郎書簡	昭和4年11月20日	立花寛一	相島勘次郎		
8	24	書簡	立花寛一宛相島勘次郎書簡	昭和5年2月3日	立花寛一	相島勘次郎		
8	25	書簡	立花寛一宛相島勘次郎書簡	昭和6年4月17日	立花寛一	相島勘次郎		封筒のみ。
8	26	書簡	根岸寛一宛近〇〇一書簡	昭和10年12月31日	根岸寛一	近〇〇一		
8	27	書簡	根岸寛一宛〇〇〇有〇男（富澤有為男？）書簡	昭和15年4月14日	根岸寛一	〇〇〇有〇男（富澤有為男？）		
8	28	書簡	根岸寛一宛甘粕正彦書簡	康德7年7月30日	根岸寛一	甘粕正彦		
8	29	書簡	宛先不明高村書簡	昭和16年2月14日	不明	高村		
8	30	書簡	根岸寛一宛川口松太郎書簡	康德9年3月28日	根岸寛一	川口松太郎		封筒のみ。
8	31	書簡	根岸寛一宛大倉一郎書簡	昭和21年9月13日	根岸寛一	大倉一郎		
8	32	書簡	根岸寛一宛青野季吉書簡	昭和21年9月17日	根岸寛一	青野季吉		
8	33	書簡	根岸寛一宛森若雄書簡	昭和21年9月26日	根岸寛一	森若雄		
8	34	書簡	根岸寛一宛谷本一一書簡	昭和21年10月27日	根岸寛一	谷本一一		
8	35	書簡	根岸寛一宛星鏡一書簡	昭和34年3月29日	根岸寛一	星鏡一		
8	36	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡	昭和34年5月24日	根岸寛一	飛田穂洲		
8	37	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡	昭和34年6月8日	根岸寛一	飛田穂洲		
8	38	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡	昭和34年6月11日	根岸寛一	飛田穂洲		
8	39	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡	昭和34年6月24日	根岸寛一	飛田穂洲		
8	40	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡	昭和35年1月18日	根岸寛一	飛田穂洲		
8	41	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡	昭和35年1月23日	根岸寛一	飛田穂洲		
8	42	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡	昭和35年3月1日	根岸寛一	飛田穂洲		
8	43	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡	昭和35年6月12日	根岸寛一	飛田穂洲		
8	44	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡	昭和35年7月2日	根岸寛一	飛田穂洲		
8	45	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡	昭和35年9月4日	根岸寛一	飛田穂洲		
8	46	書簡	根岸寛一宛〇〇〇（栄一郎？）書簡	年不明2月1日	根岸寛一	〇〇〇（栄一郎？）		
8	47	書簡	根岸先生・令夫人宛勅使河原蒼風書簡	年不明2月23日	根岸先生・令夫人	勅使河原蒼風		封筒のみ。
8	48	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡	年不明3月8日	根岸寛一	飛田穂洲		
8	49	書簡	根岸寛一宛甘粕正彦書簡	年不明3月15日	根岸寛一	甘粕正彦		
8	50	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡	年不明4月21日	根岸寛一	飛田穂洲		
8	51	書簡	根岸寛一宛父書簡	年不明7月10日？	根岸寛一	父		根岸寛一の実父立花寛次郎は早逝しているため、差出人の「父」は岳父小泉丑治？
8	52-1	書簡	根岸寛一宛小泉丑治書簡	年不明10月7日	根岸寛一	小泉丑治		封筒のなかには8-52-2が同封。
8	52-2	書簡	電報	康德12年月不明20日				
8	53	書簡	根岸寛一宛有賀乙男書簡	年不明10月15日	根岸寛一	有賀乙男		
8	54	書簡	根岸寛一宛勅使河原蒼風書簡	年不明10月22日	根岸寛一	勅使河原蒼風		封筒のみ。
8	55	書簡	根岸寛一宛青野季吉書簡	年不明10月25日	根岸寛一	青野季吉		
8	56	書簡	根岸寛一宛森若雄書簡	年不明12月2日	根岸寛一	森若雄		封筒のみ。
8	57	書簡	根岸寛一宛稲垣浩書簡	年月不明4日	根岸寛一	稲垣浩		
8	58	書簡	根岸寛一宛水町青磁書簡	年月日不明	根岸寛一	水町青磁		
8	59	書簡	宛先不記庄司和書簡	年月日不明	不記	庄司和		

8	60	書簡	宛先不記□□□□書簡	年月日不明	不記	□□□□(口しへい?)		
8	61	書簡	立花寛一宛直木書簡	年月日不明	立花寛一	直木		
8	62	書簡	立花寛一宛差出人不明書簡	年月日不明	立花寛一	不明		
8	63	書簡	根岸寛一宛差出人不明書簡	年月日不明	根岸寛一	不明		
8	64	書簡	根岸寛一宛石橋清書簡	年月日不明	根岸寛一	石橋清		
8	65	書簡	根岸すみ宛八木保太郎書簡	年月日不明	根岸すみ	八木保太郎		封筒のなかに稲垣浩「ひげとちよんまげ15 二度殺されたお母さん」切り抜き、写真(根岸寛一の少年時代と思われるもの1点、髯儀あるいは法事と思われるもの26点)が封入。
8	66	その他	封筒					日活株式会社製。
8	66-1	その他	「故根岸寛一さんを偲ぶ墓前観桜会」	昭和45年4月12日				8-66に封入。 芳名帳。
8	66-2	その他	「根岸寛一さん十年祭追悼パーティー」	昭和47年4月25日				8-66に封入。 芳名帳。
8	66-3	その他	「根岸寛一翁の三周忌『時事通信 映画芸術版』第5850号、昭和40年4月23日					8-66に封入。
8	66-4	書簡	根岸すみ宛青木どくろ書簡	昭和44年5月14日	根岸すみ子	青木どくろ		8-66に封入。 青木どくろ「『新国劇』辰巳先生との再会」コピーが同封。
8	66-5	その他	「五年祭」と書かれた封筒	昭和42年4月28日				8-66に封入。 メモ、領収書が封入。
8	66-6	その他	「御香典帳」	昭和38年5月1日				8-66に封入。
8	66-7	その他	「御香典帳」	昭和38年5月1日				8-66に封入。
8	66-8	その他	「御香典帳」	昭和38年5月1日				8-66に封入。
8	66-9	その他	「御香典帳」	昭和38年5月1日				8-66に封入。
8	66-10	その他	「御香典帳」	昭和38年5月1日				8-66に封入。
8	66-11	その他	「御香典帳」	昭和38年5月1日				8-66に封入。
8	66-12	その他	「会葬者芳名録」	昭和38年5月1日				8-66に封入。
8	66-13	その他	「会葬者芳名録」	昭和38年5月1日				8-66に封入。
8	66-14	その他	「会葬者芳名録」	昭和38年5月1日				8-66に封入。
8	66-15	その他	「会葬者芳名録」	昭和38年5月1日				8-66に封入。
8	66-16	その他	「会葬者芳名録」	昭和38年5月1日				8-66に封入。
8	66-17	その他	「会葬者芳名録」	昭和38年5月2日				8-66に封入。
8	66-18	その他	「会葬者芳名録」	昭和38年5月2日				8-66に封入。
8	66-19	その他	「会葬者芳名録」	昭和38年5月2日				8-66に封入。
8	66-20	その他	「会葬者芳名録」	昭和38年5月2日				8-66に封入。
8	66-21	その他	「会葬者芳名録」	昭和38年5月2日				8-66に封入。
8	66-22	その他	「会葬者芳名録」	昭和38年5月2日				8-66に封入。
8	66-23	その他	「会葬者芳名録」	昭和38年5月2日				8-66に封入。
8	67	その他	布袋	不明				表面に「昌平胡同六一五ノ南新京分会ノ五ノ一ノ根岸スミノ電話二六〇四三」と記載。
8	67-1	その他	ナイフ	不明				8-67に封入。
8	67-2	その他	「家庭防護須知」	康徳12年2月15日				8-67に封入。
8	67-3	書簡・その他	根岸寛一宛第一生命保険相互会社書簡	複数	根岸寛一	第一生命保険相互会社		8-67に封入。 封筒(第一生命保険相互会社)のなかに「受領票」、根岸寛一宛立川勇書簡(昭和21年3月24日)、「受領票・受付票・払込票・払込通知票」、第一生命保険相互会社製封筒、根岸寛一宛第一科金課書簡(昭和21年2月6日)、根岸寛一宛第一生命保険相互会社書簡(昭和21年9月9日)、「保険料貸付金御内入金領収証」、根岸寛一宛立川書簡(昭和21年9月9日)が同封。
8	67-3-1	書簡	根岸寛一宛第一科金課書簡	昭和21年2月6日	根岸寛一	第一科金課		8-67-3に封入。
8	67-3-2	書簡	根岸寛一宛立川勇書簡	昭和21年3月24日	根岸寛一	立川勇		8-67-3に封入。
8	67-3-3	書簡	根岸寛一宛第一生命保険相互会社書簡	昭和21年9月9日	根岸寛一	第一生命保険相互会社		8-67-3に封入。
8	67-3-4	書簡	根岸寛一宛立川書簡	昭和21年9月9日	根岸寛一	立川		8-67-3に封入。
8	67-4	書簡・その他	「岡栄一郎氏解決書類」	複数	根岸寛一	岡栄一郎		8-67に封入。 封筒(表面に「岡栄一郎氏解決書類」と記載)のなかに「受領証」、根岸寛一宛岡栄一郎書簡(年不明4月13日。この封筒のなかに根岸寛一宛岡栄一郎書簡(年月日不明)が同封)、根岸寛一宛岡栄一郎書簡(年不明5月7日)が同封。
8	67-4-1	書簡	根岸寛一宛岡栄一郎書簡	年不明4月13日	根岸寛一	岡栄一郎		8-67-4に封入。
8	67-4-1-1	書簡	根岸寛一宛岡栄一郎書簡	年月日不明	根岸寛一	岡栄一郎		8-67-4に封入。
8	67-4-2	書簡	根岸寛一宛岡栄一郎書簡	年不明5月7日	根岸寛一	岡栄一郎		8-67-4に封入。
8	67-5	その他	手帳					8-67に封入。
8	67-6	その他	「保険料月割金領収書」	昭和12年1月11日				8-67に封入。
8	67-7	その他	「保険料月割金領収書」	昭和12年2月10日				8-67に封入。
8	67-8	その他	メモ	年月日不明				8-67に封入。
8	67-9	その他	メモ	年月日不明				8-67に封入。 封筒(表面に「二十年九月ノ巳之助計算」と記載)にメモ6枚が同封。
8	67-10	その他	メモ	年月日不明				8-67に封入。
8	67-11	その他	メモ	年月日不明				8-67に封入。
8	67-12	その他	「継続保険料領収証」	昭和16年12月11日				8-67に封入。
8	67-13	その他	「受領票」	康徳12年2月28日				送り状とセット。 8-67に封入。
8	67-14	その他	「受領票・受付票・払込票・払込通知票」	年月日不明				8-67に封入。
8	67-15	その他	「保険料領収証書」	昭和16年7月12日				8-67に封入。
8	67-16	その他	「保険料領収証書」	昭和17年2月7日				8-67に封入。
8	67-17	その他	「保険料領収証書」	昭和14年3月24日				8-67に封入。
8	67-18	その他	「保険料領収証書」	昭和13年8月26日				8-67に封入。
8	67-19	その他	「保険料領収証書」	昭和12年9月4日				8-67に封入。
8	67-20	その他	「保険料領収証書」	昭和13年2月15日				8-67に封入。
8	67-21	その他	「第一生命保険料(積立金)払込票」	年月日不明(昭和12年8月頃?)				8-67に封入。
8	67-22	その他	「領収証書」	年月日不明(昭和11年4月頃?)				8-67に封入。

8	67-23	その他	「領収証書」	年月日不明（昭和11年5月頃?）				8-67に封入。
8	67-24	その他	「領収証書」	年月日不明（昭和11年6月頃?）				8-67に封入。
8	67-25	その他	「領収証書」	年月日不明（昭和11年7月頃?）				8-67に封入。
8	67-26	その他	「領収証書」	年月日不明（昭和11年8月頃?）				8-67に封入。 「保険料月割金領収書」が貼付。
8	67-27	その他	「第一生命保険料積立金払込票」	年月日不明（昭和13年5月頃）				8-67に封入。
8	67-28	その他	「領収証書」	年月日不明（昭和11年8月頃?）				8-67に封入。 「保険料月割金領収書」が貼付。
8	67-29	その他	「領収証書」	年月日不明（昭和10年12月頃?）				8-67に封入。
8	67-30	その他	「保険料月割金領収書」	昭和11年3月4日				8-67に封入。
8	67-31	その他	「保険料月割金領収書」	昭和11年4月16日				8-67に封入。
8	67-32	その他	「保険料月割金領収書」	昭和11年2月12日				8-67に封入。
8	67-33	その他	「保険料月割金領収書」	昭和11年5月19日				8-67に封入。
8	67-34	その他	「保険料月割金領収書」	昭和11年6月3日				8-67に封入。
8	67-35	その他	「領収証書」	年月日不明（昭和11年11月頃?）				8-67に封入。 「保険料月割金領収書」が貼付。
8	67-36	その他	「領収証書」	年月日不明（昭和11年10月頃?）				8-67に封入。 「保険料月割金領収書」が貼付。
8	67-37	その他	「領収証書」	年月日不明（昭和11年9月頃?）				8-67に封入。 「保険料月割金領収書」が貼付。
8	67-38	その他	「保険料領収証書」	昭和14年7月20日				8-67に封入。
8	67-39	その他	「第一生命保険料（積立金）払込票」	年月日不明（昭和12年9月頃?）				8-67に封入。
8	67-40	その他	「第一生命保険料（積立金）払込票」	年月日不明（昭和12年12月頃?）				8-67に封入。
8	67-41	その他	「第一生命保険料（積立金）払込票」	年月日不明（昭和12年10月頃?）				8-67に封入。
8	67-42	その他	「第一生命保険料（積立金）払込票」	年月日不明（昭和12年11月頃?）				8-67に封入。
8	67-43	その他	「第一生命保険料（積立金）払込票」	年月日不明（昭和13年1月頃?）				8-67に封入。
8	67-44	その他	「第一生命保険料（積立金）払込票」	年月日不明（昭和13年2月頃?）				8-67に封入。
8	67-45	その他	「第一生命保険料（積立金）払込票」	年月日不明（昭和12年3月頃?）				8-67に封入。
8	67-46	その他	「第一生命保険料（積立金）払込票」	年月日不明（昭和12年4月頃?）				8-67に封入。
8	67-47	その他	「第一生命保険料（積立金）払込票」	年月日不明（昭和12年5月頃?）				8-67に封入。
8	67-48	その他	「第一生命保険料（積立金）払込票」	年月日不明（昭和12年7月頃?）				8-67に封入。
8	67-49	その他	「第一生命保険料（積立金）払込票」	年月日不明（昭和13年3月頃?）				8-67に封入。
8	67-50	その他	「第一生命保険料（積立金）払込票」	年月日不明（昭和13年4月頃?）				8-67に封入。
8	67-51	その他	「保険料領収証書」	年不明2月15日				8-67に封入。
8	67-52	その他	「第一生命保険料（積立金）払込票」	年月日不明（昭和11年12月頃?）				8-67に封入。
8	67-53	その他	「第一生命保険料（積立金）払込票」	年月日不明（昭和12年1月頃?）				8-67に封入。
8	67-54	その他	「第一生命保険料（積立金）払込票」	年月日不明（昭和12年6月頃?）				8-67に封入。
8	67-55	その他	「宅地調査票記入上の注意事項」	昭和22年7月				8-67に封入。
8	67-56	その他	「被保険者根岸寛一（殿）診査報状」	昭和10年12月6日				8-67に封入。
8	67-57	その他	「生命保険契約申込書」	昭和10年11月30日				8-67に封入。
8	67-58	その他	「保険料領収証」	昭和21年□月□日				8-67に封入。
8	67-59	書簡	宛先不記根岸寛一書簡	康徳5年10月	不記	根岸寛一		8-67に封入。
8	67-60	その他	領収書類	複数				8-67に封入。 封筒（ジャパン・ツーリスト・ビューロー製）のなかに「領収証」3点、メモ、「御勘定領収証」、領収書、「領収書」、「明細書」5点、「御定食予約券」が同封。
8	67-61	その他	「領収証」	昭和10年12月6日				8-67に封入。
8	67-62	その他	「領収書」	昭和22年12月				8-67に封入。
8	67-63	その他	領収書類					8-67に封入。 封筒（ジャパン・ツーリスト・ビューロー製）のなかに「領収証」4点、メモ2点、「荷物配達引受証」、「運賃料金領収書」、「運賃料金領収書」、茂在松枝名刺が同封。
8	67-64	その他	「請求書」	昭和22年2月1日				8-67に封入。
8	67-65	その他	「「国民訓」解義（満日両文）」	康徳9年2月8日				8-67に封入。
8	67-66	その他	身分証明書	康徳9年7月6日				8-67に封入。
8	67-67	その他	「非常時防衛要員証明書」	康徳11年12月1日				8-67に封入。
8	67-68	その他	「自衛隊予防接種済証明書」	康徳10年6月20日				8-67に封入。
8	67-69	その他	「客員証」	年月日不明				8-67に封入。
8	67-70	その他	「診察券」	昭和19年7月8日				8-67に封入。 根岸すみの診察券。
8	67-71	その他	「市税領収証」	康徳11年9月25日				8-67に封入。
8	67-72	その他	「普通回数乗車券」	年月日不明				8-67に封入。
8	67-73	書簡	根岸寛一宛第一生命保険相互会社書簡	年月日不明	根岸寛一	第一生命保険相互会社		8-67に封入。 封筒のみ。
8	67-74	その他	「冊費貯金通帳」	昭和20年7月9日				8-67に封入。
8	67-75	その他	封筒					8-67に封入。 無地の封筒。

8	67-76	書簡・その他	権利書類					8-67に封入。 封筒（表面に「自由ヶ丘一九四〇建物権利証及／保険証書（受取書）」と記載）のなかに「土地賃貸借証書 題本」、「売渡証書」、「建物所有権保存登記申請」、「印鑑証明願」、片山正男宛差出人不明書簡（昭和19年4月14日）、「委任状」、「火災保険料領収証」が同封。
8	67-76-1	書簡	片山正男宛差出人不記書簡	昭和19年4月14日	片山正男	不記		8-67-76に封入。
8	67-77	その他	和紙					8-67に封入。 白紙状態で4枚。
8	67-78	その他	手帳					8-67に封入。 根岸すみの知人の住所録？
8	68	その他	「御祝」	年月日不明				
8	69	その他	「御祝」	年月日不明				
8	70	その他	「十一月に教える花」					生け花の説明書。 「家元教場通信より」が添付。
8	71	その他	湯本聡一郎名刺					
8	72	その他	「大陸映画連盟規約」	年月日不明				
8	73	その他	名簿	年月日不明				
8	74	その他	「帰って来るか原爆映画」『朝日新聞』昭和42年5月26日夕刊	昭和42年5月26日				坪井與、坂上休次郎、堀保治、大森伊八、岡田寿之、辻野力弥、宮沢忠雄、坂巻辰男、黒住盛太郎、斎藤亮男の署名。 新聞記事切り抜き。
8	75	その他	「十二月に教える花」					生け花の説明書。 「家元教場通信より」が添付。
1	14	書簡	根岸寛一宛小村隆彦書簡	昭和16年3月19日	根岸寛一	小村隆彦	3	
1	15	書簡	電報	康德9年2月14日			4	
1	16	書簡	根岸寛一宛五鬼上堅磐書簡	昭和17年2月26日	根岸寛一	五鬼上堅磐	4	
1	17	書簡	電報	昭和17年3月26日			4	
1	18	書簡	電報	康德9年6月24日			4	
1	19	書簡	電報	康德9年6月24日			4	
1	20	書簡	電報	康德10年7月7日			4	
1	21	書簡	企画局長宛差出人不記書簡	昭和19年8月14日	企画局長	不記	5	
1	22	書簡	根岸寛一宛相島□□書簡	昭和18年2月5日	根岸寛一	相島□□	6	
1	23	書簡	電報	康德10年1月24日			6	
1	24	書簡	根岸寛一宛根岸栄次書簡	年月日不明	根岸寛一	根岸栄次	8	
1	25	書簡	根岸寛一宛満洲文芸家協会書簡	康德11年2月20日	根岸寛一	満洲文芸家協会	10	
1	26	書簡	根岸寛一宛根岸晶子書簡	昭和19年6月3日	根岸寛一	根岸晶子	11	
1	27	書簡	根岸寛一宛清水千代太書簡	年不明11月9日	根岸寛一	清水千代太	11	
1	28	書簡	根岸寛一宛相島多気雄書簡	昭和16年11月22日	根岸寛一	相島多気雄	12	
1	29	書簡	根岸寛一宛浅岡信夫書簡	昭和19年8月	根岸寛一	浅岡信夫	12	
1	30	書簡	根岸寛一宛根岸晶子書簡	昭和19年9月8日	根岸寛一	根岸晶子	12	
2	28	書簡	根岸寛一宛星一書簡	昭和21年3月27日	根岸寛一	星一	15	
2	29	書簡	根岸寛一宛村上さち子書簡	1947年12月13日	根岸寛一	村上さち子	15	
2	30	書簡	根岸寛一宛村上さち子書簡	年不明1月14日	根岸寛一	村上さち子	15	
2	31	書簡	立花寛一宛菊池寛書簡	年不明10月6日	立花寛一	菊池寛	15	
2	32	書簡	お父さん宛晶子書簡	年月日不明	お父さん	晶子	15	
2	33	書簡	兄上宛巳之助書簡	年月日不明	兄上	巳之助	17	
2	34	書簡	根岸寛一宛結束武二郎書簡	年月不明15日	根岸寛一	結束武二郎	18	
2	35	書簡	社長宛加納竜一書簡	年不明9月7日	社長	加納竜一	19	
2	36	書簡	根岸寛一宛差出人不記書簡	年不明3月22日	根岸寛一	不記	19	
2	37	書簡	岩崎宛宛石井信平書簡	昭和43年11月18日	岩崎宛	石井信平	20	
2	38	書簡	根岸寛一宛坂上休次郎書簡	昭和21年12月2日	根岸寛一	坂上休次郎	21	
2	39	書簡	岩崎宛宛日ノ協会書簡	昭和43年11月13日	岩崎宛	日ノ協会	21	
2	40	書簡	岩崎宛宛前進座書簡	昭和43年11月14日	岩崎宛	前身座	21	封筒のみ。
2	41	書簡	根岸寛一宛八幡晴夫書簡	年月日不明	根岸寛一	八幡晴夫	21	
2	42	書簡	根岸寛一宛有賀乙男書簡	年月日不明	根岸寛一	有賀乙男	21	
2	43	書簡	根岸寛一宛青野季吉書簡	昭和22年1月7日	根岸寛一	青野季吉	22	
2	44	書簡	根岸寛一宛増井英夫書簡	昭和22年1月13日	根岸寛一	増井英夫	22	
2	45	書簡	根岸寛一宛相島多気雄書簡	昭和22年1月18日	根岸寛一	相島多気雄	22	
2	46	書簡	根岸寛一宛村上寛書簡	年不明1月14日	根岸寛一	村上寛	22	
2	47	書簡	根岸寛一宛村松梢風書簡	昭和22年3月29日	根岸寛一	村松梢風	24	
2	48	書簡	根岸寛一宛石橋清書簡	年不明3月28日	根岸寛一	石橋清	24	
2	49	書簡	根岸寛一宛道満謙吾書簡	年不明7月25日	根岸寛一	道満謙吾	24	
2	50	書簡	根岸寛一宛八幡晴夫書簡	年月不明26日	根岸寛一	八幡晴夫	24	
2	51	書簡	根岸寛一宛八幡晴夫書簡	年月日不明	根岸寛一	八幡晴夫	24	
2	52	書簡	根岸寛一宛八幡晴夫書簡	年月日不明	根岸寛一	八幡晴夫	24	
2	53	書簡	根岸寛一宛澤邊幸書簡	昭和22年6月16日	根岸寛一	澤邊幸	26	
2	54	書簡	根岸寛一宛岡栄一郎書簡	年不明6月2日	根岸寛一	岡栄一郎	26	
2	55	書簡	根岸寛一宛八幡博堂書簡	年月日不明	根岸寛一	八幡博堂	26	封筒のみ。
2	56	書簡	根岸寛一宛中村□司（中村強司？）書簡	昭和22年7月1日	根岸寛一	中村□司（中村強司？）	27	
2	57	書簡	根岸寛一宛倉田文人書簡	昭和22年8月16日	根岸寛一	倉田文人	29	
2	58	書簡	根岸寛一宛根岸晶子書簡	年月日不明	お父さん	あき子	29	
2	59	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡	昭和23年1月9日	根岸寛一	飛田穂洲	30	
2	60	書簡	電報	昭和22年10月4日			31	
2	61	書簡	電報	昭和22年10月9日			31	
2	62	書簡	根岸寛一宛結束武二郎書簡	年不明9月10日	根岸寛一	結束武二郎	31	
2	63	書簡	根岸寛一宛根岸晶子書簡	年不明1月13日	根岸寛一	根岸晶子	32	
2	64	書簡	根岸寛一宛五島書簡	年月不明13日	根岸寛一	五島	33	
2	65	書簡	根岸寛一宛真船進書簡	昭和23年3月11日	根岸寛一	真船進	34	
2	66	書簡	根岸寛一宛相島□書簡	年不明2月2日	根岸寛一	相島□	34	
2	67	書簡	根岸寛一宛坂東衛書簡	年不明3月11日	根岸寛一	坂東衛	34	
2	68	書簡	根岸すみ宛村上晶子書簡	年不明4月10日	根岸すみ	村上晶子	34	
2	69	書簡	根岸寛一宛□□□書簡	年月日不明	根岸寛一	□□□（藤田平二？）	34	

2	70	書簡	電報		年不明3月20日			35	
2	71	書簡	根岸寛一宛相島□□書簡		昭和23年5月3日	根岸寛一	相島□□	36	
2	72	書簡	根岸寛一宛有賀乙男書簡		昭和23年5月6日	根岸寛一	有賀乙男	36	
2	73	書簡	根岸寛一宛星一書簡		年月日不明	根岸寛一	星一	36	
2	74	書簡	根岸伯父上宛有賀乙男書簡		昭和23年9月2日	根岸伯父上	有賀乙男	39	
2	75	書簡	根岸寛一宛有賀乙男書簡		昭和23年9月8日	根岸寛一	有賀乙男	39	
2	76	書簡	宛先不明黒川書簡		年月日不明	不明	黒川	39	
2	77	書簡	根岸寛一宛有賀乙男書簡		昭和23年8月2日	根岸寛一	有賀乙男	38	
3	25	書簡	根岸寛一宛江守清樹郎書簡		昭和23年5月30日	根岸寛一	江守清樹郎	38	
3	26	書簡	根岸寛一宛桂興業株式会社書簡		年不明6月28日	根岸寛一	桂興業株式会社	38	
3	27	書簡	根岸寛一宛有賀八重子書簡		昭和23年7月19日	根岸寛一	有賀八重子	40	
3	28	書簡	根岸寛一宛相島多気雄書簡		年不明7月18日	根岸寛一	相島多気雄	40	
3	29	書簡	根岸親爺殿宛マキノ満男書簡		年月不明17日	根岸親爺殿	マキノ満男	40	
3	30	書簡	根岸宛古野書簡		年不明7月29日	根岸	古野	41	
3	31	書簡	知事宛星一書簡		昭和23年7月5日	知事	星一	42	
3	32	書簡	根岸寛一宛伊藤義書簡		年月日不明	根岸	伊藤義	42	
3	33	書簡	根岸寛一宛有賀乙男書簡		昭和23年9月19日	根岸寛一	有賀乙男	43	
3	34	書簡	根岸寛一宛本橋秀三書簡		昭和23年9月20日	根岸寛一	本橋秀三	43	
3	35	書簡	電報		昭和23年10月5日			43	
3	36	書簡	根岸寛一宛結束武二郎書簡		昭和23年10月12日	根岸寛一	結束武二郎	43	
3	37	書簡	電報		昭和23年10月12日			43	
3	38	書簡	根岸寛一宛青野季吉書簡		昭和23年10月13日	根岸寛一	青野季吉	43	
3	39	書簡	根岸寛一宛青野季吉書簡		昭和23年10月25日	根岸寛一	青野季吉	43	
3	40	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡		昭和23年10月29日	根岸寛一	飛田穂洲	43	
3	41	書簡	電報		昭和23年11月20日			43	
3	42	書簡	根岸寛一宛村岡清書簡		年不明9月12日	根岸寛一	村岡清	43	
3	43	書簡	根岸伯父上宛有賀乙男書簡		年不明9月27日	根岸伯父上	有賀乙男	43	
3	44	書簡	根岸寛一宛前田道雄書簡		年不明10月13日	根岸寛一	前田道雄	43	
3	45	書簡	根岸宛上村書簡		年不明10月29日	根岸	上村	43	
3	46	書簡	根岸寛一宛有賀乙男書簡		年不明11月14日	根岸寛一	有賀乙男	43	
3	47	書簡	根岸寛一宛村上さち子書簡		年不明12月30日	根岸寛一	村上さち子	43	
3	48	書簡	根岸親爺殿宛満男書簡		年月不明5日	根岸親爺殿	満男	43	
3	49	書簡	根岸寛一宛有賀乙男書簡		年月日不明	根岸寛一	有賀乙男	43	
3	50	書簡	兄上宛巳之助書簡		年月日不明	兄上	巳之助	43	
3	51	書簡	宛先差出人不記書簡		年月日不明	不記	不記	43	
3	52	書簡	宛先差出人不記書簡		年月日不明	不記	不記	43	
3	53	書簡	根岸寛一宛相島□□書簡		昭和23年11月1日	根岸寛一	相島□□	44	
3	54	書簡	根岸親爺殿宛満男書簡		年不明10月18日	根岸親爺殿	満	44	
3	55	書簡	根岸寛一宛森岩雄書簡		昭和24年1月1日	根岸寛一	森岩雄	47	
3	56	書簡	根岸寛一宛松口竹一(松岡竹一?)書簡		昭和24年1月22日	根岸寛一	松口竹一(松岡竹一?)	47	
3	57	書簡	根岸寛一宛岡富久子書簡		昭和24年1月25日	根岸寛一	岡富久子	47	
3	58	書簡	根岸寛一宛本橋秀三書簡		昭和24年6月24日	根岸寛一	本橋秀三	47	
3	59	書簡	根岸寛一宛松本金作書簡		年不明5月13日	根岸	松本金作	47	
3	60	書簡	根岸寛一宛高橋秀夫書簡		年不明6月22日	根岸寛一	高橋秀夫	47	
3	61	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡		年不明6月23日	根岸寛一	村上晶子	47	
3	62	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡		年月日不明	根岸寛一	村上晶子	47	
3	63	書簡	根岸寛一宛岡書簡		年月日不明	根岸	岡	47	
3	64	書簡	根岸寛一宛青野季吉書簡		昭和24年2月7日	根岸寛一	青野季吉	48	
3	65	書簡	根岸寛一宛古野伊之助書簡		昭和24年4月7日	根岸寛一	古野伊之助	50	
3	66	書簡	根岸寛一宛伊藤義書簡		年不明5月12日	根岸寛一	伊藤義	50	
3	67	書簡	根岸寛一宛有賀乙男書簡		昭和24年6月7日	根岸寛一	有賀乙男	51	
3	68	書簡	根岸寛一宛青野季吉書簡		昭和24年6月13日	根岸寛一	青野季吉	51	
3	69	書簡	根岸寛一宛□□□□書簡		昭和24年8月11日	根岸寛一	□□□□	51	
3	70	書簡	根岸寛一宛本橋秀三書簡		年不明6月10日	根岸寛一	本橋秀三	51	
3	71	書簡	根岸寛一宛古野伊之助書簡		年不明6月13日	根岸寛一	古野伊之助	51	
3	72	書簡	根岸寛一宛青野季吉書簡		年月不明23日	根岸寛一	青野季吉	51	
3	73	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡		昭和24年8月14日	根岸寛一	村上晶子	52	
3	74	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡		昭和24年8月23日	根岸寛一	村上晶子	52	
3	75	書簡	根岸宛宮地書簡		年月日不明	根岸	宮地	52	
3	76	書簡	根岸寛一宛赤沼茂芳書簡		昭和24年10月27日	根岸寛一	赤沼茂芳	55	
3	77	書簡	根岸寛一宛五島慶太書簡		年月不明31日	根岸寛一	五島慶太	55	
3	78	書簡	根岸寛一宛佐治乾書簡		昭和27年2月4日	根岸寛一	佐治乾	60	
3	79	書簡	根岸宛差出人不記書簡		年月日不明	根岸	不記	61	
4	23	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡		昭和27年2月8日	根岸寛一	村上晶子	62	
4	24	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡		昭和27年3月23日	根岸寛一	村上晶子	62	
4	25	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡		昭和27年3月28日	根岸寛一	村上晶子	62	
4	26	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡		年不明2月13日	根岸寛一	村上晶子	62	
4	27	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡		昭和27年1月5日	根岸寛一	村上晶子	63	
4	28	書簡	根岸寛一宛森岩雄書簡		昭和27年8月6日	根岸寛一	森岩雄	65	
4	29	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡		昭和27年11月3日	根岸寛一	村上晶子	65	
4	30	書簡	根岸寛一宛赤沼茂芳書簡		昭和27年12月11日	根岸寛一	赤沼茂芳	65	
4	31	書簡	父上宛覺書簡		年不明10月28日	父上	覺	65	
4	32	書簡	お父さん宛晶子書簡		年不明10月28日	お父さん	晶子	65	
4	33	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡		昭和28年2月15日	根岸寛一	村上晶子	66	
4	34	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡		昭和28年2月20日	根岸寛一	村上晶子	66	
4	35	書簡	根岸寛一宛結束書簡		昭和28年3月5日	根岸寛一	結束	66	
4	36	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡		昭和28年3月7日	根岸寛一	村上晶子	66	
4	37	書簡	根岸寛一宛有賀乙男書簡		昭和28年3月19日	根岸寛一	有賀乙男	66	

4	38	書簡	根岸寛一宛佐治乾書簡	昭和28年8月7日	根岸寛一	佐治乾	68	ハガキ2枚で1セット。
4	39	書簡	根岸寛一宛ジョン S.田中書簡	昭和29年1月30日	根岸寛一	ジョン S.田中	71	
4	40	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡	昭和29年2月20日	根岸寛一	村上晶子	71	
4	41	書簡	根岸寛一宛板垣武男書簡	昭和29年2月22日	根岸寛一	板垣武男	71	
4	42	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡	年不明(昭和29年?)2月17日	根岸寛一	村上晶子	71	
4	43	書簡	根岸寛一宛結束武二郎書簡	昭和29年8月4日	根岸寛一	結束武二郎	72	
4	44	書簡	根岸すみ宛村上晶子書簡	昭和29年8月5日	根岸すみ	村上晶子	72	
4	45	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡	昭和29年8月6日	根岸寛一	村上晶子	72	
4	46	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡	昭和29年3月10日	根岸寛一	村上晶子	73	
4	47	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡	昭和29年3月11日	根岸寛一	村上晶子	73	
4	48	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡	昭和29年7月4日	根岸寛一	村上晶子	75	
4	49	書簡	根岸寛一宛結束書簡	昭和30年2月16日	根岸寛一	結束	77	
4	50	書簡	根岸寛一宛有賀乙男書簡	昭和30年2月16日	根岸寛一	有賀乙男	77	
4	51	書簡	根岸寛一宛村上純子書簡	昭和31年8月29日	根岸寛一	けいこ	77	
4	52	書簡	根岸寛一・すみ宛むらかみじゅんこ書簡	昭和31年8月29日	根岸寛一・すみ	むらかみじゅんこ	77	
4	53	書簡	根岸寛一宛青野季吉書簡	昭和31年10月31日	根岸寛一	青野季吉	77	
4	54	書簡	根岸寛一宛赤沼茂芳書簡	昭和31年11月1日	根岸寛一	赤沼茂芳	77	
4	55	書簡	根岸寛一宛映画旬刊編集委員会書簡	昭和31年6月	根岸寛一	映画旬刊編集委員会	82	
4	56	書簡	根岸宛金澤書簡	年不明7月12日	根岸	金澤	82	
4	57	書簡	根岸親爺殿宛マキノ光雄書簡	年月日不明	根岸寛一	マキノ光雄	82	
4	58	書簡	大奥様宛赤川孝一書簡	昭和61年9月24日	大奥様(根岸すみ?)	赤川孝一		
5	19	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡	昭和30年6月13日	根岸寛一	村上晶子	79	
5	20	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡	昭和30年6月13日	根岸寛一	村上晶子	79	
5	21	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡	昭和30年9月5日	根岸寛一	村上晶子	79	
5	22	書簡	宛先不記差出人不記書簡	昭和31年クリスマス	不記	不記	80	
5	23	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡	昭和31年1月3日	根岸寛一	村上晶子	81	
5	24	書簡	根岸寛一宛川島延子書簡	昭和31年1月10日	根岸寛一	川島延子	81	
5	25	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡	昭和31年2月17日	根岸寛一	村上晶子	81	
5	26	書簡	根岸寛一宛口原一口書簡	昭和31年3月30日	根岸寛一	口原一口(漆原一衛?)	81	
5	27	書簡	根岸寛一宛むらかみじゅんこ書簡	昭和31年12月20日	根岸寛一	むらかみじゅんこ	84	
5	28	書簡	おじいちゃん宛じゅんこ書簡	昭和31年12月26日	おじいちゃん	じゅんこ	84	
5	29	書簡	根岸すみ宛村上じゅんこ書簡	昭和31年月日不明	根岸すみ	村上じゅんこ	84	
5	30	書簡	根岸すみ宛村上純子書簡	昭和32年1月9日	根岸すみ	村上純子	84	
5	31	書簡	おばあちゃん宛じゅんこ書簡	年不明12月11日	おばあちゃん	じゅんこ	84	
5	32	書簡	根岸寛一・すみ宛むらかみじゅんこ書簡	年月日不明	根岸寛一・すみ	むらかみじゅんこ	86	
5	33	書簡	宛先不記啓子書簡	昭和32年11月19日	不記	啓子	87	
5	34	書簡	Grand father・Grand mother宛Junko書簡	1957年12月21日	Grand father・Grand mother	Junko	87	
5	35	書簡	根岸宛金澤書簡	年不明9月20日	根岸	金澤	87	
5	36	書簡	根岸伯父上宛有賀正剛書簡	年不明10月2日	根岸伯父上	有賀正剛	87	
5	37	書簡	根岸寛一宛清水千代太書簡	年不明12月26日	根岸寛一	清水千代太	87	
5	38	書簡	根岸寛一宛村上純子書簡	年月日不明	根岸寛一	村上純子	87	
5	39	書簡	おばあちゃん宛村上純子書簡	年月日不明	おばあちゃん	むらかみじゅんこ	87	
5	40	書簡	根岸寛一宛青野季吉書簡	昭和33年4月9日	根岸寛一	青野季吉	88	
5	41	書簡	根岸寛一宛軽部修書簡	昭和33年4月13日	根岸寛一	軽部修	88	
5	42	書簡	根岸寛一宛板垣武男書簡	年不明5月6日	根岸寛一	板垣武男	89	
5	43	書簡	根岸寛一宛根岸浜男書簡	昭和33年9月22日	根岸寛一	根岸浜男	90	
6	10	書簡	根岸寛一宛森田久書簡	昭和34年4月20日	根岸寛一	森田久	91	
6	11	書簡	根岸寛一宛村上純子書簡	昭和34年1月1日	根岸寛一	村上純子	92	
6	12	書簡	根岸寛子宛村上純子書簡	昭和34年1月1日	根岸寛子	村上純子	92	
6	13	書簡	宛先不記市川敏・石橋清・森本太真夫・義・金澤覚太郎書簡	年月日不明	不記	市川敏・石橋清・森本太真夫・義・金澤覚太郎	92	
6	14	書簡	根岸寛一宛本橋力之輔書簡	昭和34年9月2日	根岸寛一	本橋力之輔	93	
6	15	書簡	根岸寛一宛五島昇書簡	昭和34年9月8日	根岸寛一	五島昇	93	
6	16	書簡	根岸寛一宛五島上堅磐書簡	昭和34年9月18日	根岸寛一	五島上堅磐	93	
6	17	書簡	貴伯父上宛宏二書簡	昭和34年11月10日	貴伯父上	宏二	93	
6	18	書簡	根岸寛一宛九ヶ雄書簡	年不明10月11日	根岸寛一	九ヶ雄	93	
6	19	書簡	宛先不記伊藤義・保太郎・吐夢・清山憲書簡	年月日不明	不記	伊藤義・八木保太郎・内田吐夢・清山憲	93	
6	20	書簡	根岸寛一宛黒川涉三書簡	昭和35年2月1日	根岸寛一	黒川涉三	94	
6	21	書簡	根岸寛一宛江守清樹郎書簡	昭和35年3月17日	根岸寛一	江守清樹郎	94	
6	22	書簡	宛先不記Murakami Junko書簡	年月日不明	不記	Murakami Junko	94	
6	23	書簡	根岸寛一宛五島昇書簡	年不明4月6日	根岸寛一	五島昇	95	
6	24	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡	昭和35年7月13日	根岸寛一	飛田穂洲	96	
6	25	書簡	根岸寛一・ひろ子・すみ宛村上純子書簡	昭和35年7月20日	根岸寛一・ひろ子・すみ	村上純子	96	
6	26	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡	昭和35年7月30日	根岸寛一	飛田穂洲	96	
6	27	書簡	根岸寛一宛高橋秀夫書簡	昭和35年10月4日	根岸寛一	高橋秀夫	97	
6	28	書簡	根岸寛一宛針木康雄書簡	昭和35年11月5日	根岸寛一	針木康雄	97	
6	29	書簡	根岸寛一宛高橋秀夫書簡	昭和35年11月8日	根岸寛一	高橋秀夫	97	
6	30	書簡	根岸寛一宛高橋秀夫書簡	昭和35年12月2日	根岸寛一	高橋秀夫	97	
6	31	書簡	根岸寛一宛五島昇書簡	昭和36年1月6日	根岸寛一	五島昇	98	
6	32	書簡	根岸寛子宛佐藤豊口書簡	平成6年12月13日	根岸寛子	佐藤豊口	98	
6	33	書簡	根岸寛子宛中村瑛子書簡	平成6年4月12日	根岸寛子	中村瑛子	98	
6	34	書簡	根岸寛高橋秀夫書簡	年不明12月15日	根岸	高橋秀夫	98	
6	35	書簡	根岸寛一宛有賀正剛書簡	年不明12月19日	根岸寛一	有賀正剛	98	
6	36	書簡	根岸寛一宛五島昇書簡	年月不明8日	根岸寛一	五島昇	98	

6	37	書簡	根岸寛子宛岩佐美世書簡	年月日不明	根岸寛子	岩佐美世	98	
6	38	書簡	根岸寛一宛高橋秀夫書簡	昭和36年11月26日	根岸寛一	高橋秀夫	102	
6	39	書簡	根岸寛一宛高橋秀夫書簡	昭和36年12月12日	根岸寛一	高橋秀夫	102	
7	11	書簡	根岸寛一宛江守清樹郎書簡	昭和36年2月20日	根岸寛一	江守清樹郎	99	
7	12	書簡	根岸すみ宛竹下トモ子書簡	昭和36年3月5日	根岸すみ	竹下トモ子	99	
7	13	書簡	根岸寛一宛江守清樹郎書簡	昭和36年4月15日	根岸寛一	江守清樹郎	99	
7	14	書簡	根岸寛一宛岡村二一書簡	昭和36年5月12日	根岸寛一	岡村二一	99	
7	15	書簡	根岸寛一宛星親一書簡	年不明7月8日	根岸寛一	星親一	100	
7	16	書簡	根岸寛一宛村上晶子書簡	昭和37年7月29日	根岸寛一	村上晶子	105	
7	17	書簡	根岸すみ宛村上晶子書簡	昭和37年7月29日	根岸すみ	村上晶子	105	
7	18	書簡	根岸寛一宛村上純子書簡	昭和37年8月3日	根岸寛一	村上純子	105	
7	19	書簡	根岸寛一宛高橋秀夫書簡	昭和37年9月16日	根岸寛一	高橋秀夫	105	ハガキ2枚で1セット。
7	20	書簡	根岸寛一宛村上啓子書簡	年月日不明	根岸寛一	村上啓子	105	
7	21	書簡	根岸寛一宛高橋秀夫書簡	昭和38年1月31日	根岸寛一	高橋秀夫	107	
7	22	書簡	根岸寛一宛高橋秀夫書簡	昭和38年2月4日	根岸寛一	高橋秀夫	107	
7	23	書簡	根岸寛一宛村上純子書簡	昭和38年3月18日	根岸寛一	村上純子	108	
7	24	書簡	根岸寛一宛高橋秀夫書簡	昭和38年3月22日	根岸寛一	高橋秀夫	108	
7	25	書簡	根岸寛一宛飛田穂洲書簡	昭和38年3月25日	根岸寛一	飛田穂洲	108	
7	26	書簡	根岸寛一宛相島多気雄書簡	昭和38年3月27日	根岸寛一	相島多気雄	108	
7	27	書簡	根岸寛一宛銭谷功書簡	昭和38年3月28日	根岸寛一	銭谷功	108	
7	28	書簡	根岸寛一宛森田久書簡	昭和38年4月19日	根岸寛一	森田久	108	
7	29	書簡	根岸寛一宛江守清樹郎書簡	昭和38年月日不明	根岸寛一	江守清樹郎	108	